



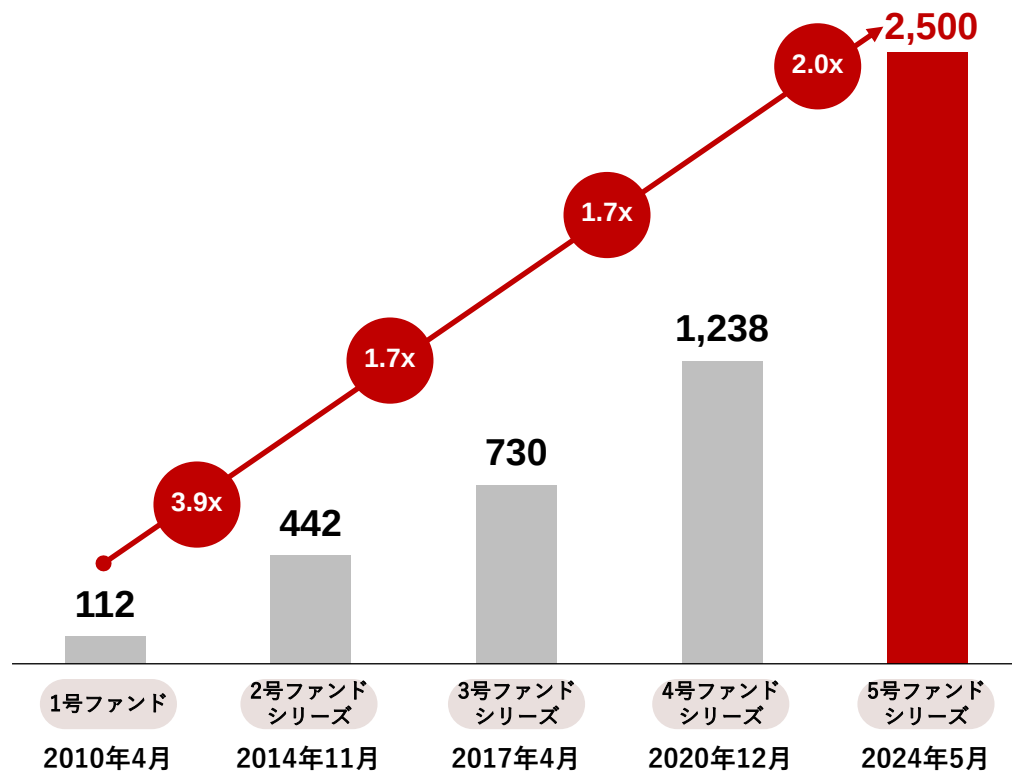
FY2025Q1 決算プレゼンテーション

インテグラル株式会社

2025年5月

日本型プライベートエクイティファンドの リーディングカンパニー

(億円)



グロスMOIC¹

2.8x

グロスIRR¹

27.0%

FE-AUM

3,933億円

投資
プロフェッショナル

56人/95人

1. 投資期間中である4号ファンドシリーズを除く、1号ファンド、2号ファンドシリーズ、3号ファンドシリーズのグロスMOIC、グロスIRRの単純平均（1号ファンドはファンド清算時、2号ファンドシリーズ、3号ファンドシリーズは2025年3月末時点）

日本の中堅企業に注力しながら、 これまでに投資した事業価値（EV）累計は6,000億円超

1号



封入封緘機 大手



世界的バリコレブランド

SHICATA CO.

女性靴OEM 大手



TVCM制作 大手



住宅賃貸斡旋 大手



光部品市場グローバルニッチ

2号



高集客居酒屋チェーン



くさび型足場製造 大手



低価格帯ネイルサロン 大手



低価格帯カット国内最大手



第3極最大手キャリア



世界最大級のクロマグロ養殖場運営



レディースアパレル大手



毛髪関連事業大手



車載用サーミスタ業界大手

3号



ダイレクトマーケティング事業運営



IT/RPAの専門家集団



肥料/アンモニア化学プラントEPC大手 独立系肥料メーカー大手



サンデン・リテールシステム株式会社
自販機・冷蔵ショーケース大手



ベルトコンベア部品大手・ロボットSler



DX/IoTの専門家集団



カラーコンタクト企画販売大手



プライダルリング大手

4号



フォト関連市場 大手



業務用木製家具 大手



半導体用フォトマスク大手



投資用アパート販売 国内大手



オフィスコーヒーサービス
パイオニア



精密加工技術グローバルニッチ



国内最大規模のIT人材事業者



国内最大の動物病院グループ



大型高層ビル用の鉄骨ファブリケーター

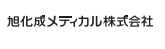
5号

旭化成メディカル株式会社

血液浄化関連製品の開発・製造・販売

投資・Exit状況

投資先	企業概要	ファンド	プリンシパル
	封入封緘機メーカー	Exit	Exit
	世界的パリコレブランド	Exit	投資中
SHICATA co.	女性靴OEM	Exit	Exit
	TVCM制作事業	Exit	-
	住宅賃貸斡旋	Exit	-
	光部品市場グローバルニッチ企業	Exit	Exit
	マルチブランド、高集客居酒屋チェーン	Exit	-
	くさび形足場の製造・販売	Exit	-
	低価格帯ネイルサロン	Exit	Exit
	低価格帯カット事業	Exit	投資中
	第3極最大手キャリア	Exit	Exit
	世界最大級のクロマグロ養殖場	Exit	-
	大手レディースアパレル	Exit	投資中
	ウィッグ等の毛髪関連事業	投資中	-
	車載用サーミスタ製造	Exit	Exit

投資先	企業概要	ファンド	プリンシパル
	ダイレクトマーケティング事業	部分Exit	投資中
	RPAを中心としたITプロ集団	Exit	Exit
	肥料/エチレンプラントの開発	投資中	投資中
	独立系肥料メーカー	Exit	Exit
	自販機・冷蔵ショーケース製造・販売	投資中	投資中
	ベルトコンベア部品製造・販売	Exit	投資中
	システムインテグレーター	部分Exit	部分Exit
T-Garden	カラーコンタクト企画販売	Exit	Exit
	ブライダルリング事業	投資中	投資中
	新品・中古カメラの小売	投資中	投資中
	インテリア・コントラクト家具の企画・製造	投資中	投資中
	半導体用フォトマスクの製造及び販売	投資中	投資中
	投資用アパートの開発・販売	投資中	投資中
	オフィスコーヒーサービス事業	投資中	投資中
	精密機器の製造及び販売	投資中	投資中
	ソフトウェア関連事業	投資中	投資中
	動物病院グループ	投資中	投資中
	大型高層ビル用の鉄骨ファブリケーター	投資中	投資中
	血液浄化関連製品の開発・製造・販売	投資中	投資中

本日のアジェンダ

1. 2025年1Qの実績
2. 収益の3本柱について

Appendix

1

2025年1Qの実績

堅調な投資活動

1Q



4号投資

2025年1月

日本有数の鉄骨
ファブリケーターへの資本参加



4号追加投資

2025年2月

Japan Animal Care HD（旧 バディHD）
によるDPCへの資本参画

旭化成メディカル株式会社

5号投資

2025年4月

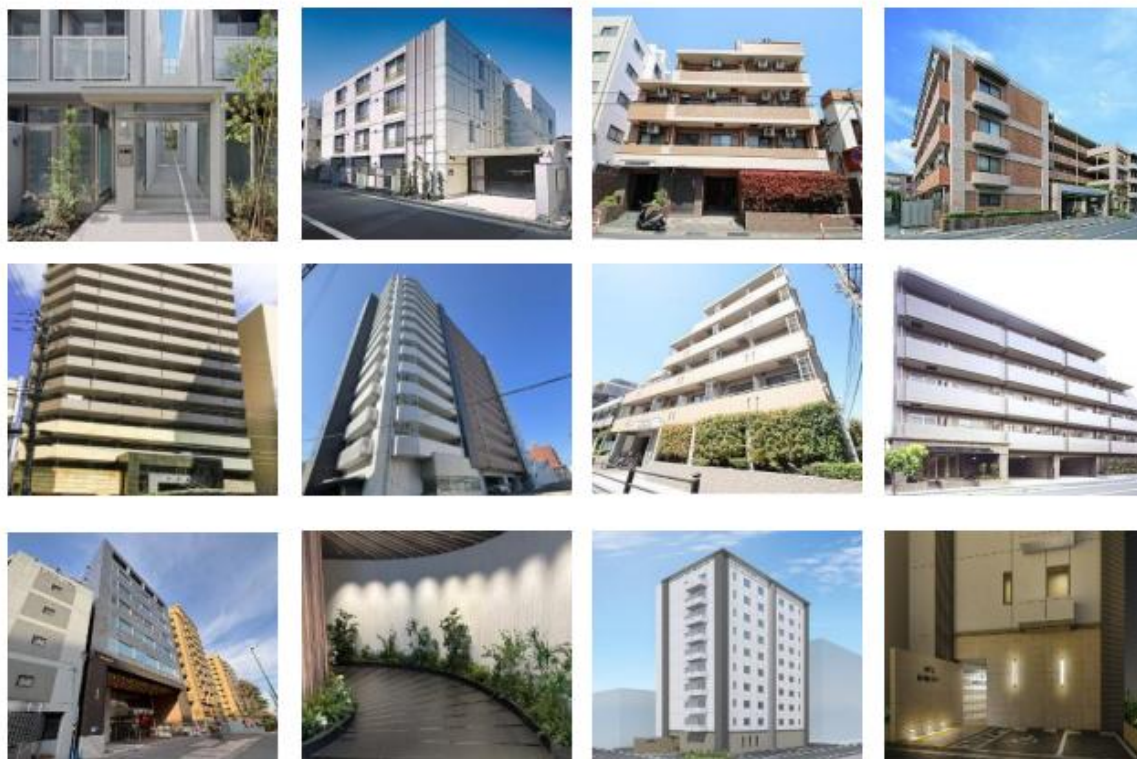
旭化成グループの
血液浄化事業に資本参加

不動産投資もアクティブ

不動産投資ファンド1号による投資

物件取得：賃貸住宅 8 物件、オフィス 1 物件

売買契約締結：ホテル 1 物件



マルチアセット化の推進

グローバルテック・グロース事業の開始

グローバルテック・グロース投資事業の開始およびファンドの設立に関するお知らせ

当社は、2025年3月31日開催の取締役会において、下記のとおりグローバルテック・グロース投資事業を開始し、グローバルテック・グロースファンドを設立することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 事業開始の趣旨

当社は、2025年3月公表の「事業計画及び成長可能性に関する事項」に掲げた通り、プライベートエクイティ投資に加えてさらに不動産・グロース・インフラ・クレジット等のアセットクラスへ投資するファンド事業を展開することで、社会と産業の発展へ貢献し、結果として当社企業価値の増大およびさらなるAUMの拡大を図っていくことを中長期成長戦略として構想しております。既に、2025年1月に発表いたしました通り、不動産投資ファンド運営事業を開始しております。

この度、当社はグローバルテック・グロース投資事業に精通した投資プロフェッショナルを新たに招聘し、当該事業への参入を目的としたインテグラル・グローバルテック・パートナーズ株式会社（英文商号 Integral GlobalTech Partners Corporation 以下、「IGT」といいます。）を設立し、同社が助言しグローバルにグロース投資を行うグローバルテック・ファンドである Innovation GlobalTech Partners Alpha LP を設立・出資し、グローバルテック・ファンド運営事業を開始することを決議いたしました。テクノロジーのグローバルな展開に鑑み、日本・アジア・米国等のグロース企業に投資し経営をご支援してまいります。

Granite Asia CapitalとのJV設立及び共同投資ファンド設立を決議

Granite Asia Capital Pte. Ltd. との JV 設立及び共同投資ファンド設立に関するお知らせ

当社は、2025年3月31日開催の取締役会において、下記のとおりグロース投資に関連する新規事業を開始することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 事業開始の趣旨

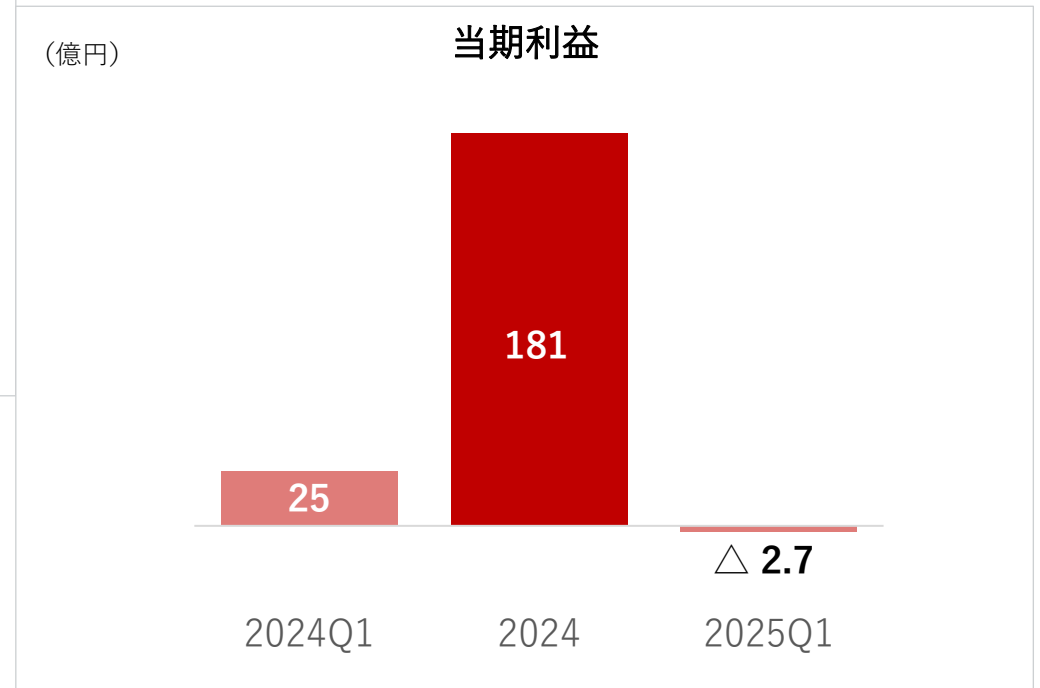
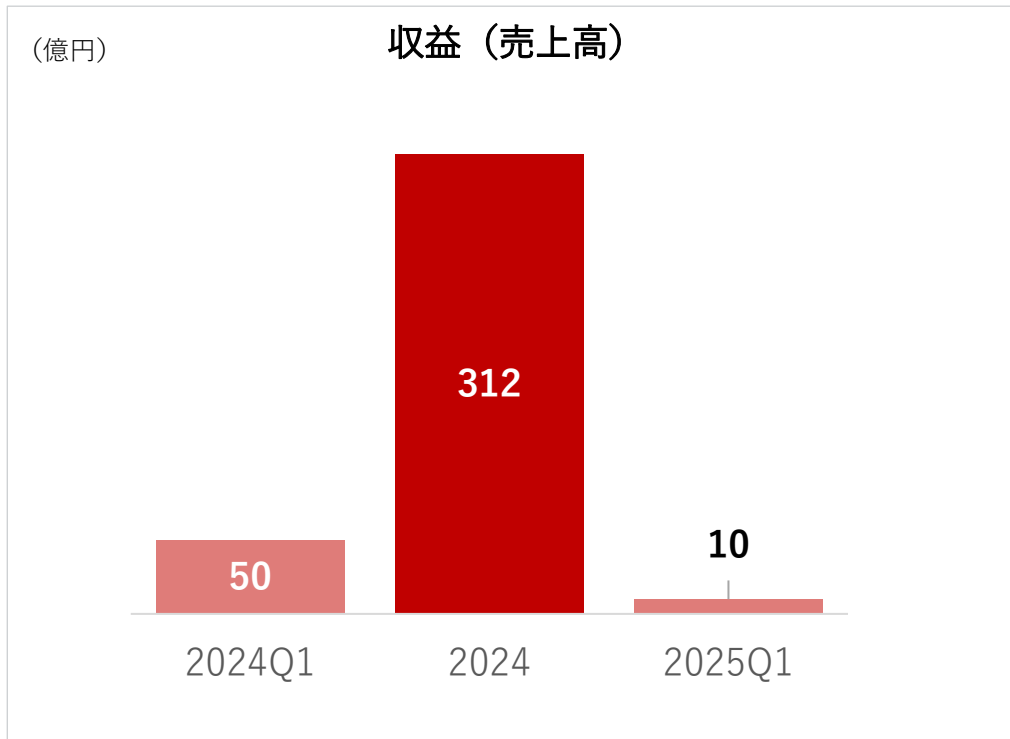
当社は、2025年3月公表の「事業計画及び成長可能性に関する事項」に掲げた通り、プライベートエクイティ投資に加えてさらにグロース等のアセットクラスへ投資するファンド事業を展開することで、社会と産業の発展へ貢献し、結果として当社企業価値の増大およびさらなるAUMの拡大を図っていくことを中長期成長戦略として構想しております。

その構想の一環で、グロース等のアセットクラスへ投資するファンド事業を展開すべく、当社はグロース投資事業に精通した投資プロフェッショナルを新たに招聘し、グロース投資事業を行うインテグラル・グローバルテック・パートナーズ株式会社（英文商号 Integral GlobalTech Partners Corporation 以下、「IGT」といいます。）を設立しております。

この度、グロース投資事業を更に発展させる目的で、アジア地域でグロース投資事業を展開している Granite Asia Capital Pte. Ltd.（以下、「Granite 社」といいます）と共同で、Granite Integral Capital Pte. Ltd.（以下、「GIC」といいます）を設立し、日本を含むアジア地域におけるグロース投資および、同ファンド Granite Integral Investments（以下、「GII」といいます）運営事業を開始することを決議いたしました。

収益・利益の推移

主に公正価値減少による影響で収益・利益は前期比で減少（詳細は事項）



収益・利益の主な増減要因

(億円)

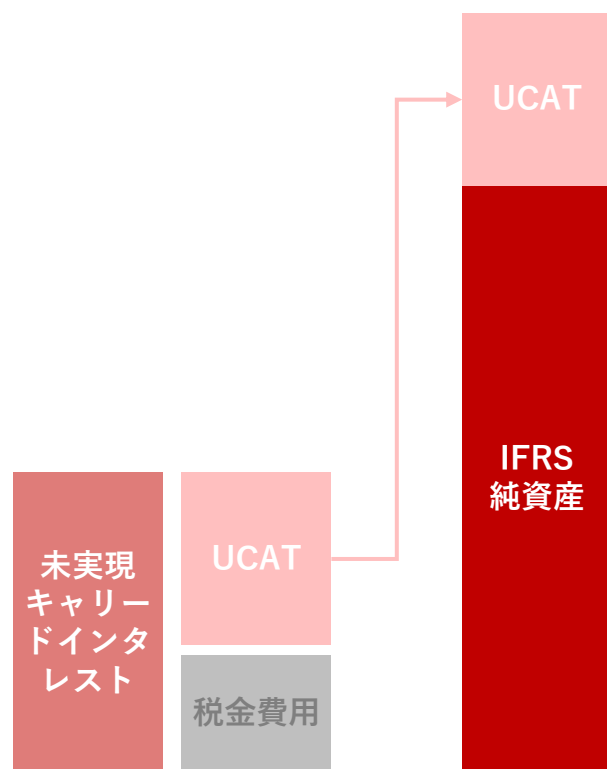
		2024Q1	2025Q1	YoY	主な増減要因
収益	投資収益総額 (公正価値変動等)	35	△7	△43	- 投資先企業の業績改善の一巡 - 公正価値評価で使用する上場類似会社の株価等に基づく指標の悪化 (24/12 対25/3比較)
	リカーリング	9	17	+7	5号ファンドシリーズの投資期間開始による寄与 (2ヶ月分のみ)
	実現CI	5	0	△4	各期のExit状況による変動
	合計	50	10	△40	
当期利益		25	△2.7	△27.7	防衛特別法人税の創設により実効税率が変更。繰延税金負債を新たな実効税率で計算したことにより、追加的に法人税等調整額が発生

経済収益ベース純資産の着実な成長を目指す

フレームワーク

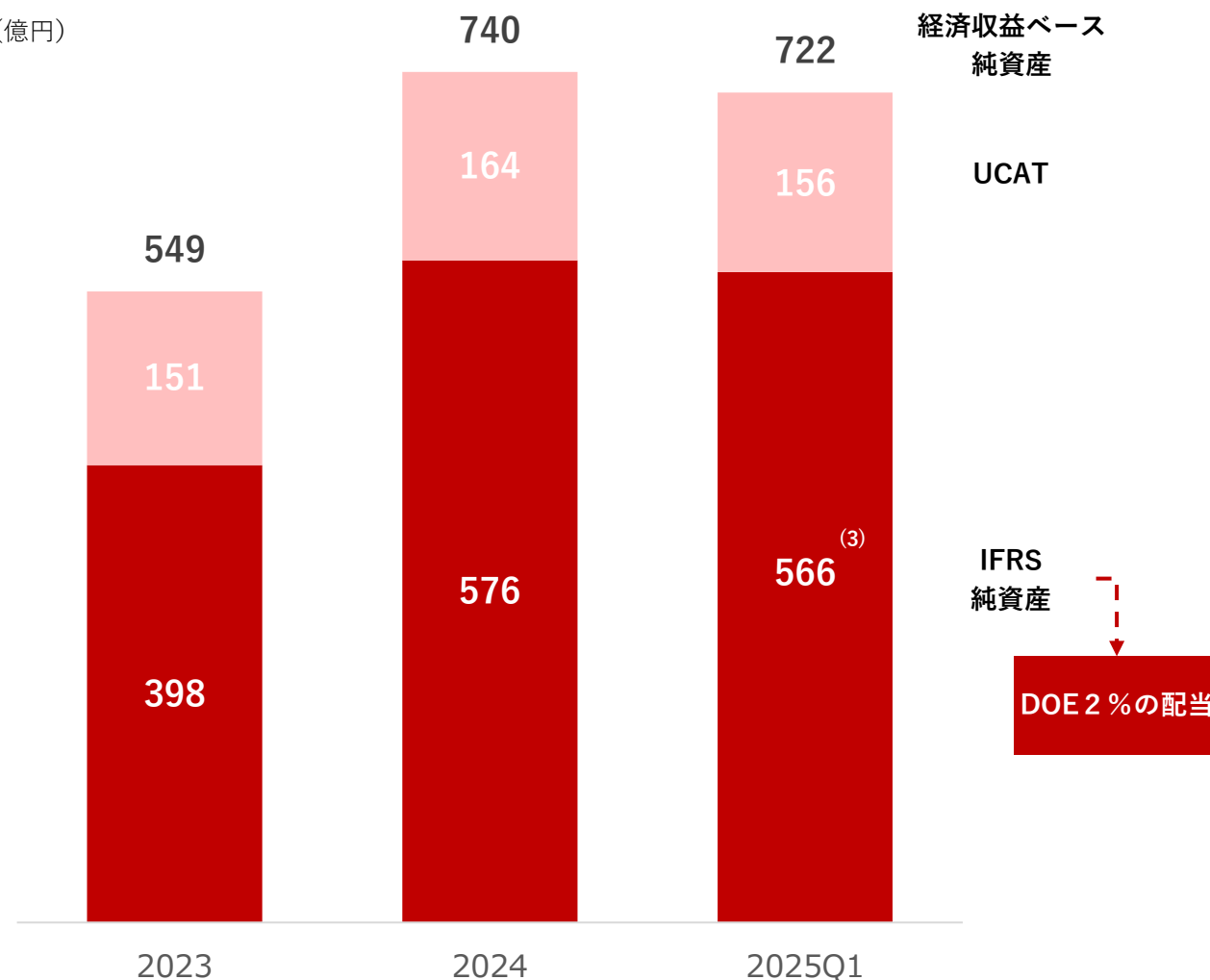
UCAT : 未実現キャリド
インタレスト (税引後) ⁽¹⁾

経済収益
ベース純資産 ⁽²⁾



経済収益ベース純資産

(億円)



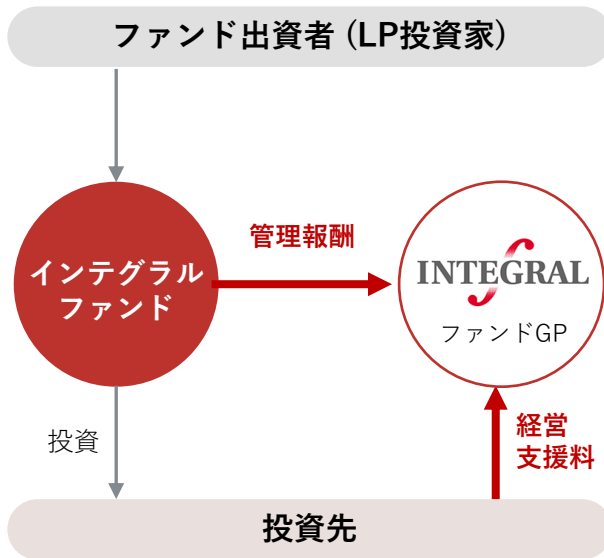
2

収益の3本柱について

収益の3本柱

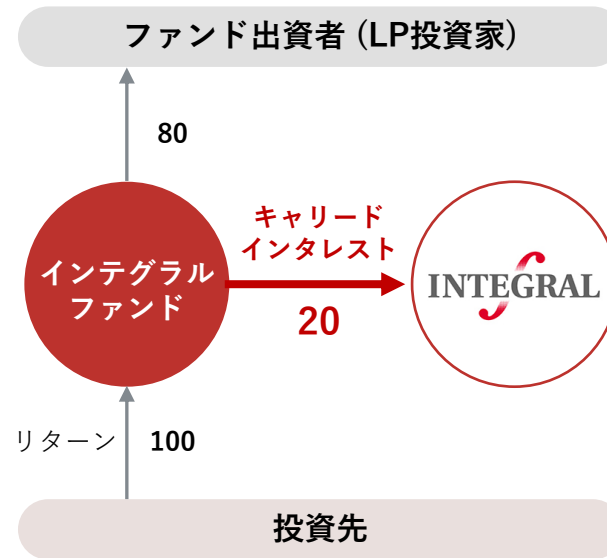
1

複数ファンドのFE AUMから
一定割合の管理報酬を
毎四半期毎に受領



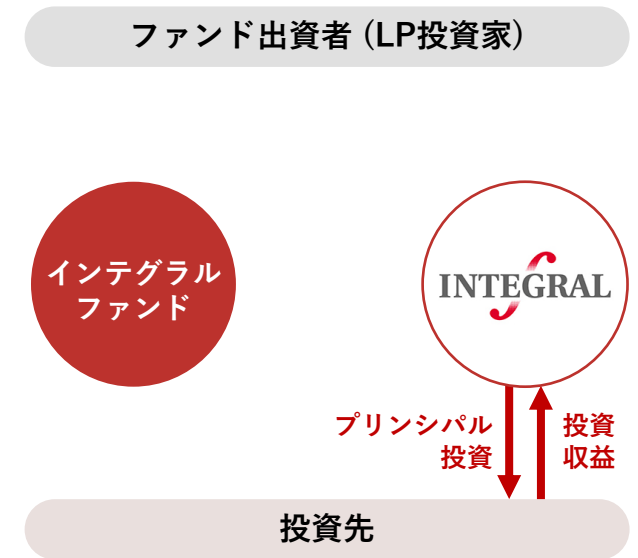
2

リターンの一定割合を受領

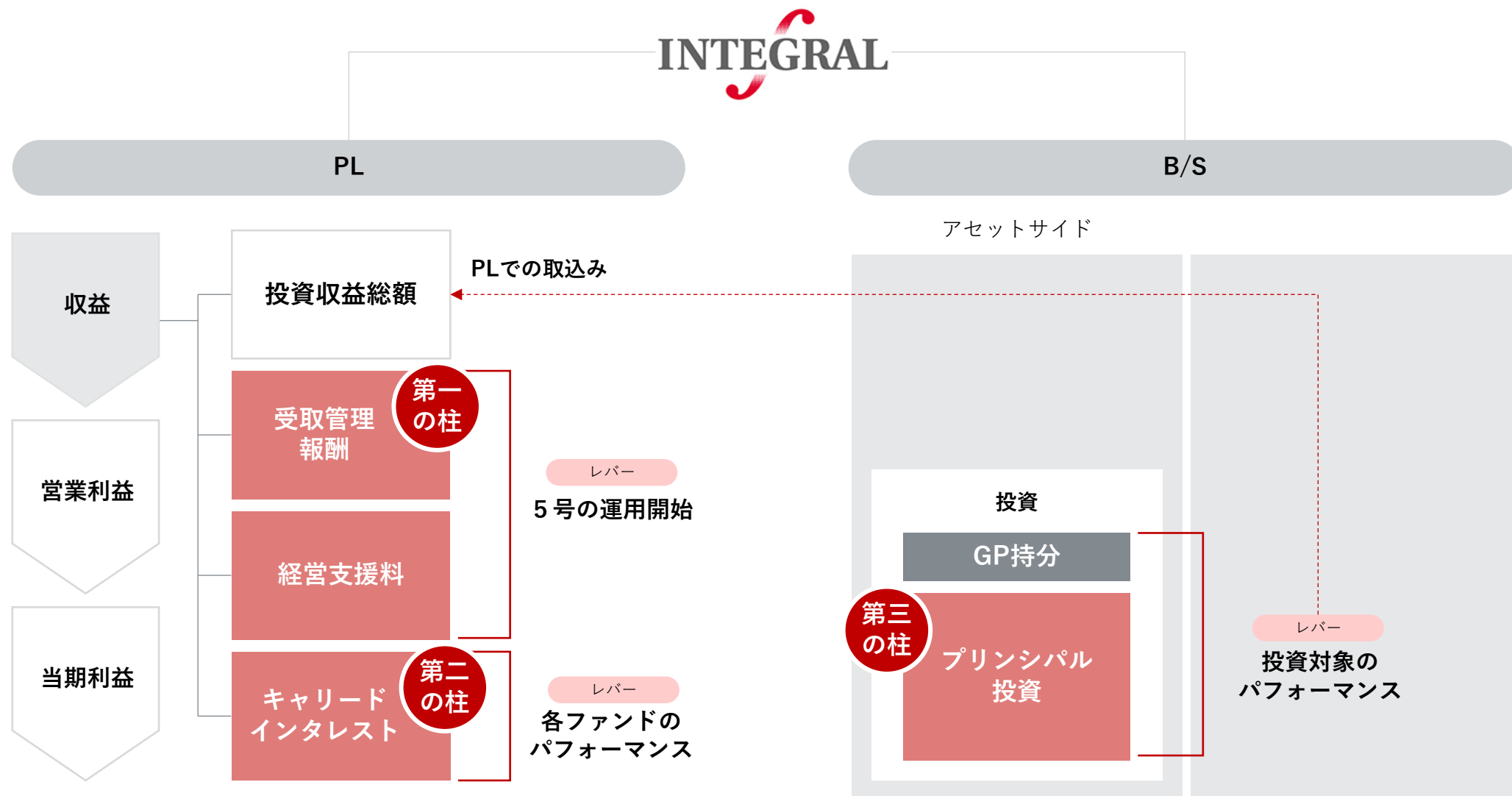


3

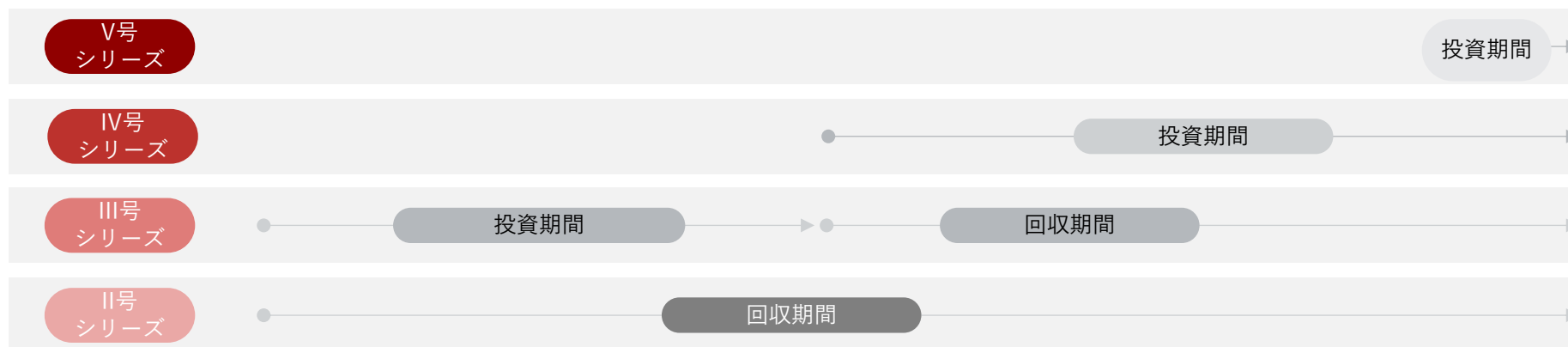
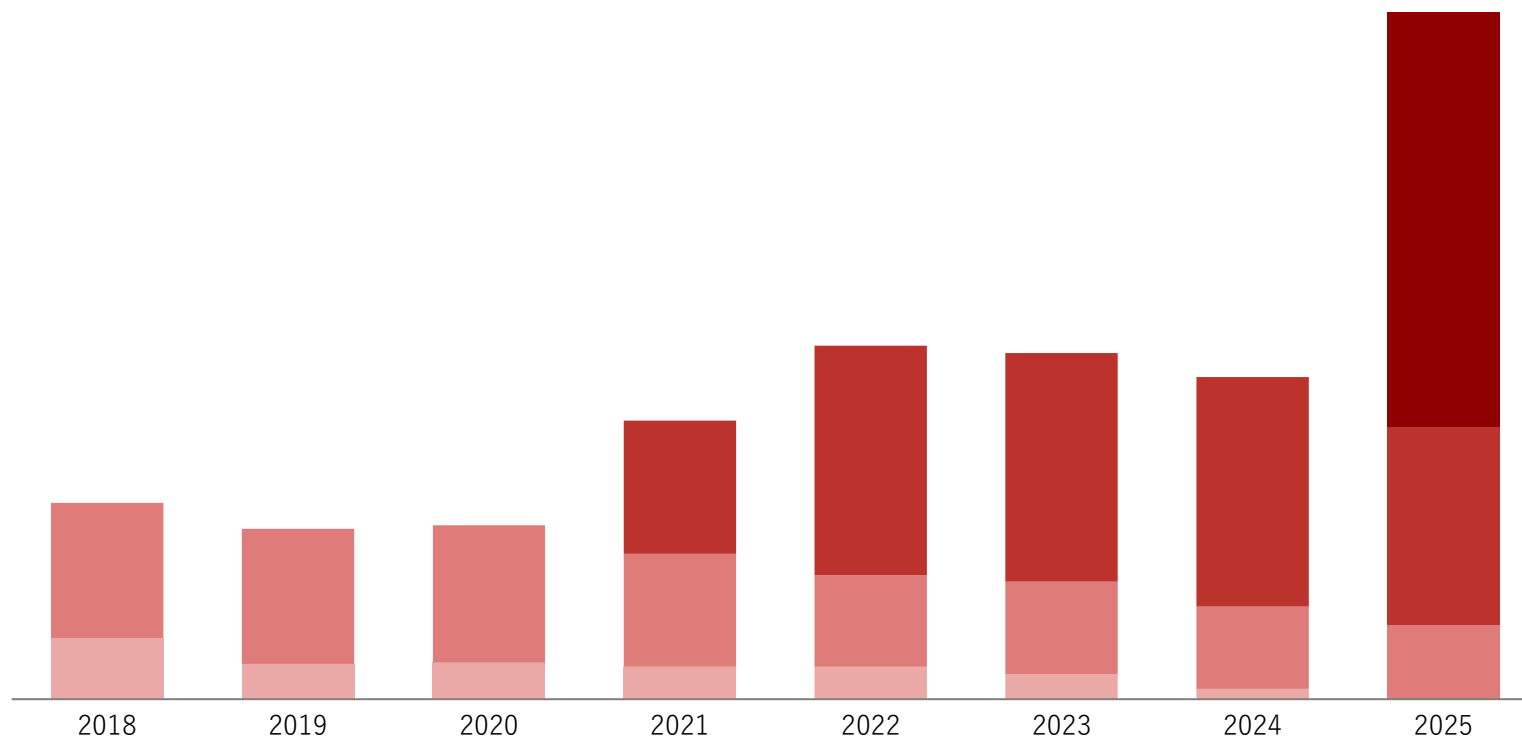
ファンド投資と自己資金を同時に出資。
インテグラルだけが提供する競争優位性



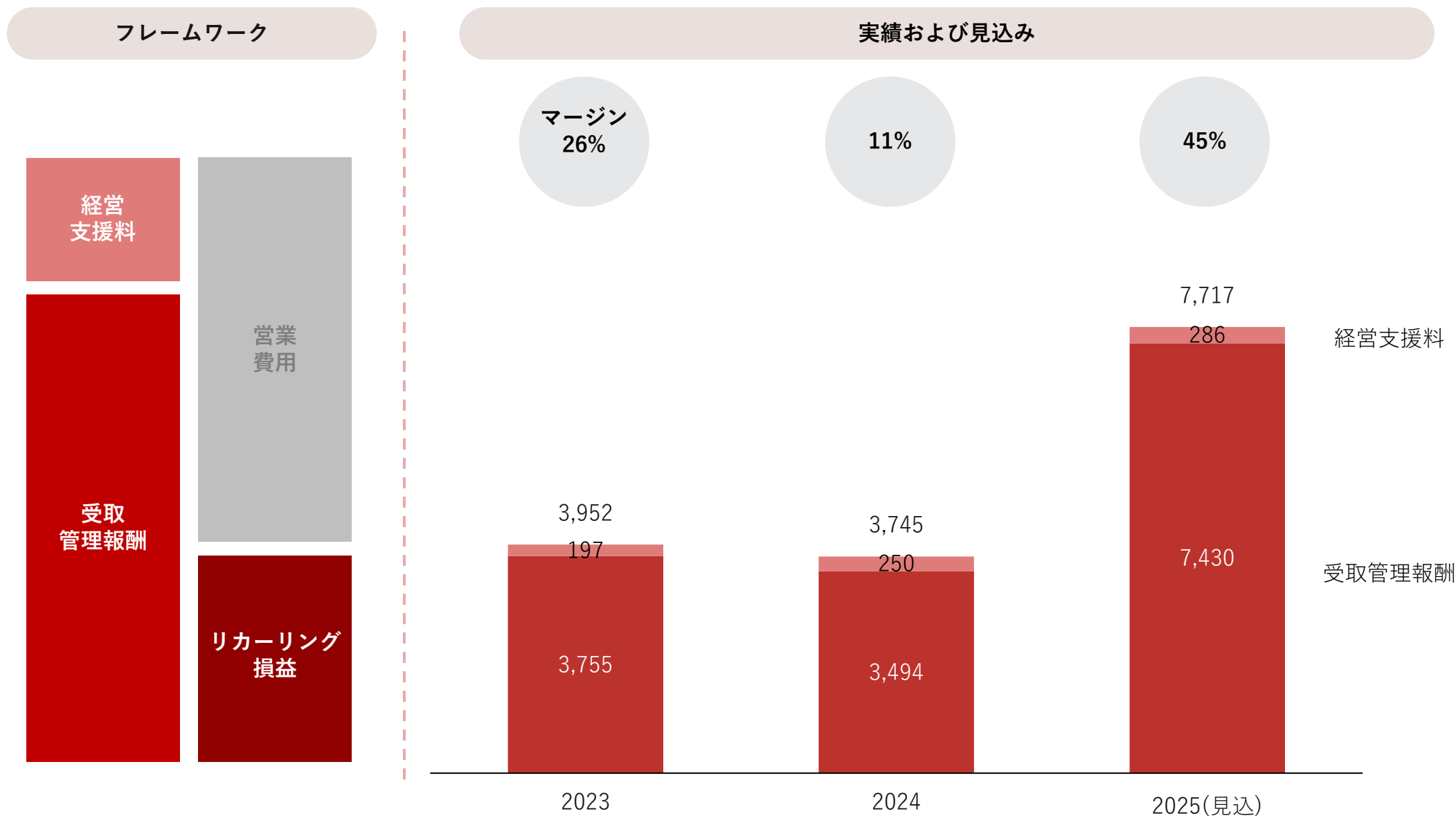
3本柱によるユニークな価値創造モデル



第一の柱① 管理報酬は積み重ねへ



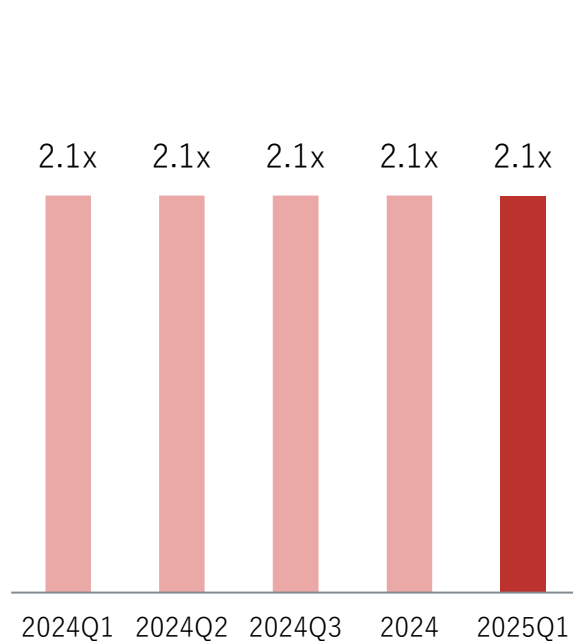
第一の柱② 良好なリカーリングマージン



1. マージンの算定においては、営業費用から一時費用を控除。一時費用は、23/12期は151百万円、24/12期は1,888 百万円であり、25/12期は192百万円の見込

第二の柱① 堅実なファンドパフォーマンス

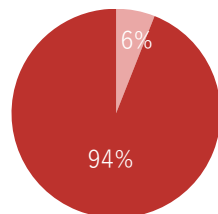
2号ファンドシリーズ



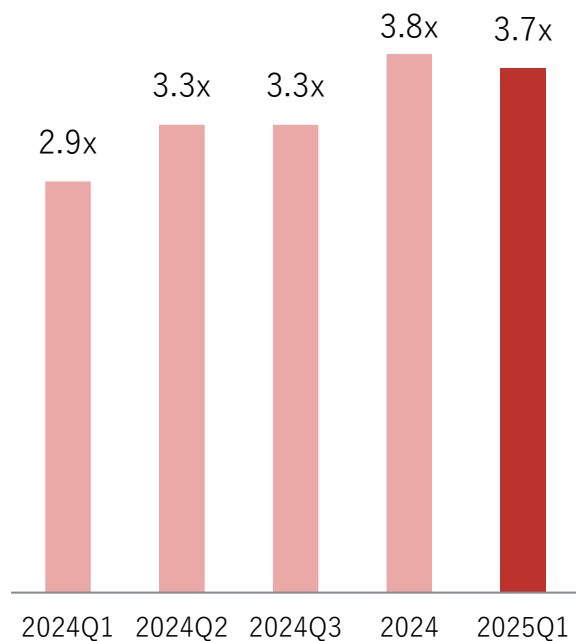
2014～

■回収 ■NAV (未回収分)

出資約束金額
442億円



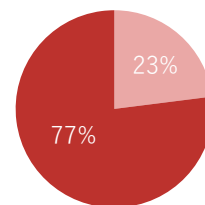
3号ファンドシリーズ



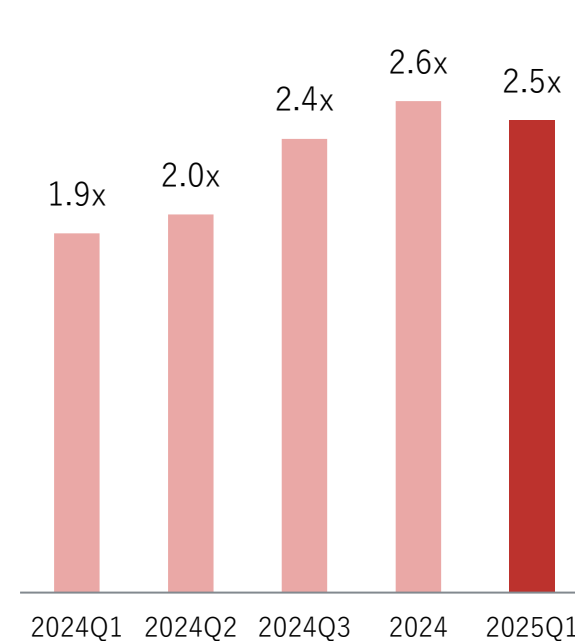
2017～

■回収 ■NAV (未回収分)

出資約束金額
730億円



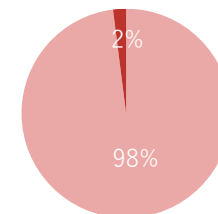
4号ファンドシリーズ



2021～

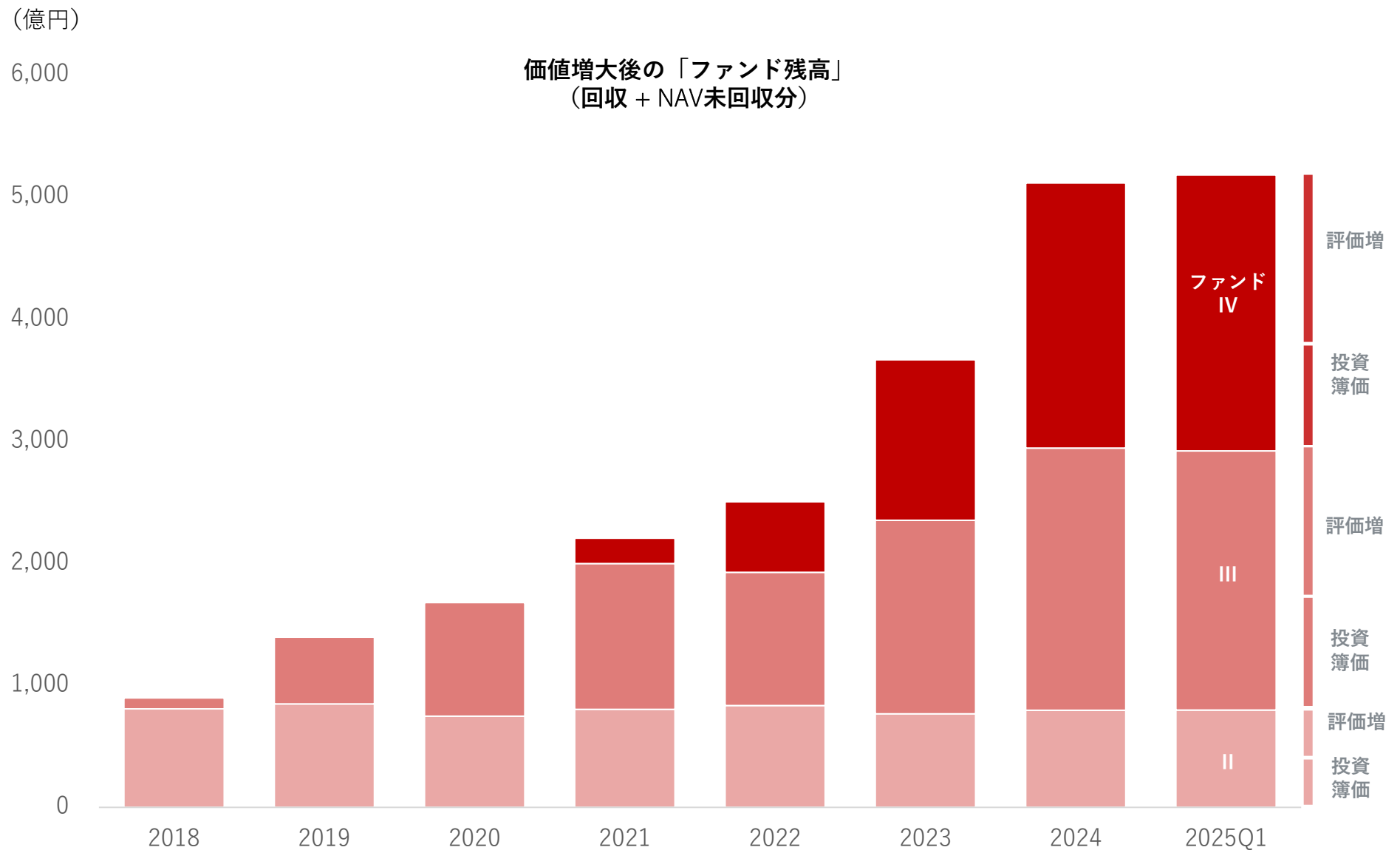
■回収 ■NAV (未回収分)

出資約束金額
1,238億円



1. 2025年3月末時点で、4号ファンドシリーズではブリッジファイナンスによる投資が存在するものの、将来返還される予定の一時的な投資のため、上記数値からは除外

第二の柱② キャリートインタレストの源泉



第二の柱③

「投資先繁栄」をまず第一に大切にし、結果としてリターンに

ストック残高がどれだけ成長しているか

「ファンド残高」が
価値増大している

源泉

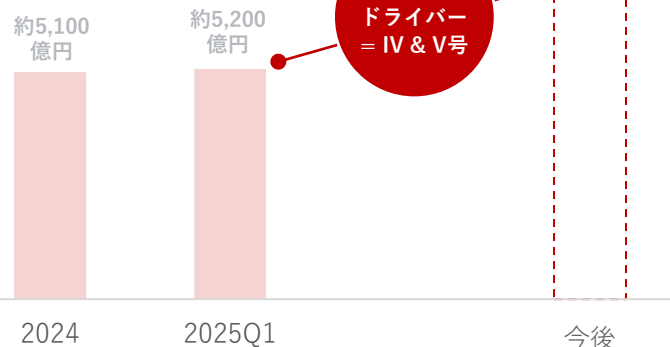
「キャリドインタレスト」が
増大している

源泉

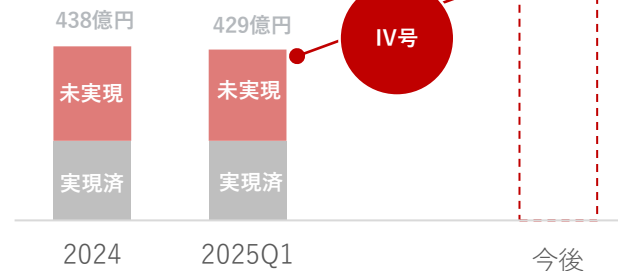
ストックからフローに

キャリドインタレスト
の将来の実現額を予想可能

価値増大後の「ファンド残高」
= 回収 + 残存FV(フェアバリュー)



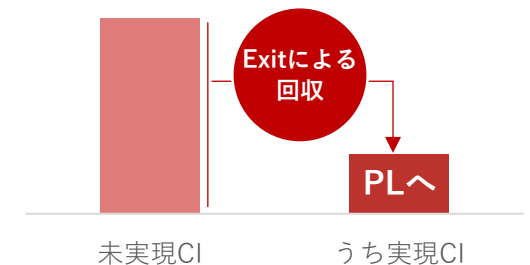
「キャリドインタレスト」が増大



決算短信4ページでも主要なKPIとして開示

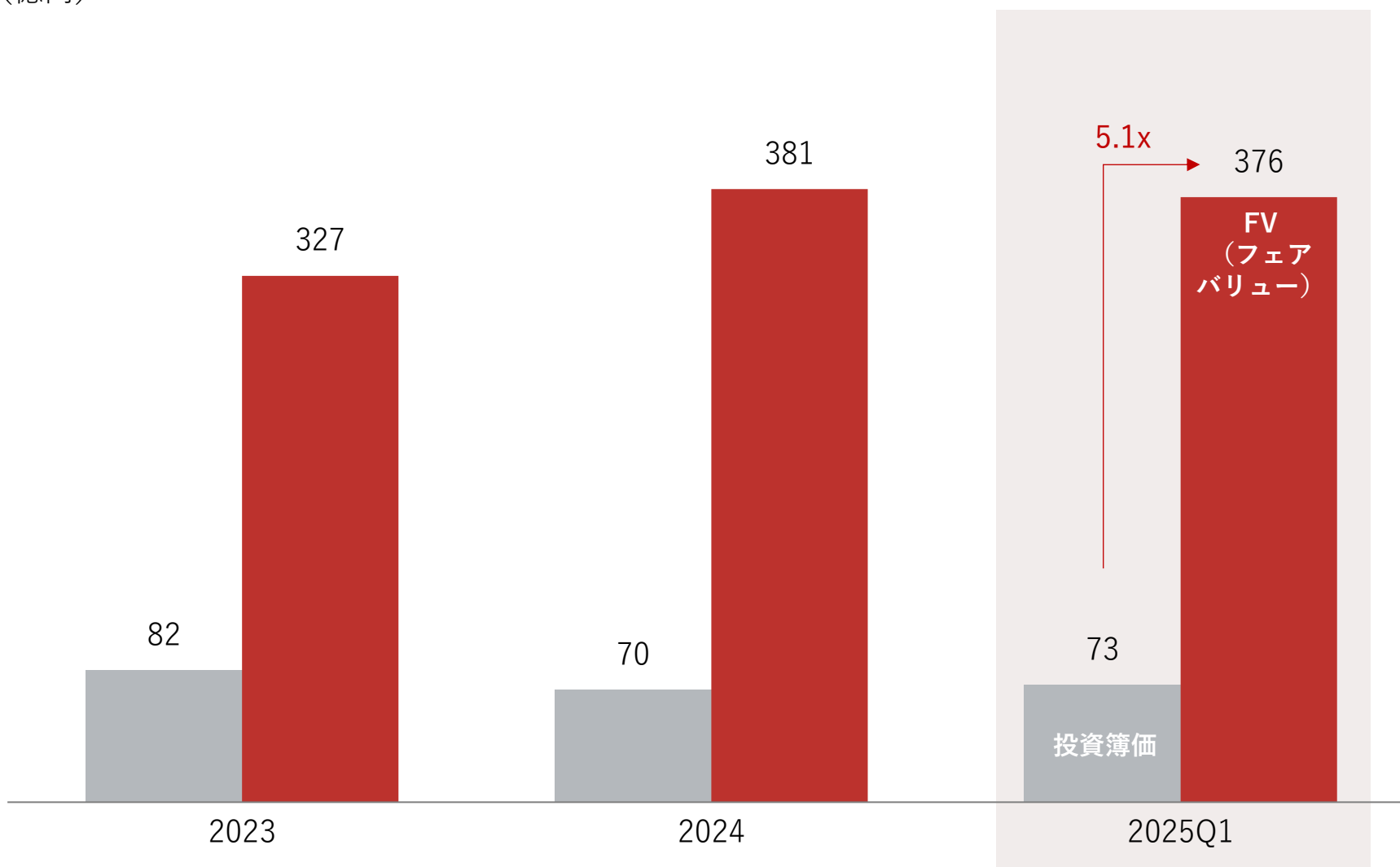
(億円)	2023/12	2024/12	2025/3
AUM	2,185	1,999	5,439
...			
未実現キャリドインタレスト			
2号ファンドシリーズ	20	6	5
3号ファンドシリーズ	144	80	72
4号ファンドシリーズ	53	150	149

実現キャリドインタレストが
生み出され、PL上で収益認識



第三の柱 外部環境の変化等によりFVにインパクト

(億円)



1. 2025年3月末時点で、i-Bridgeによる投資（機動的な投資実行のため、当社の自己資金をブリッジ・ファイナンスとして活用する投資）及び4号ファンドシリーズと共に行うブリッジファイナンスによる投資が存在するものの、将来返還される予定の一時的な投資のため、上記の投資簿価及びFVからは除外

総括

- 1 — マーケット変動により、前年同期比で減収減益も、投資先業績は引き続き堅調
- 2 — 5号ファンドシリーズの運用開始により、リカーリング収益の受取管理報酬が大幅に増加
- 3 — マルチアセット展開も着実に進捗
 - ・不動産投資ファンド事業は、複数アセットの取得・契約締結が完了
 - ・2025年3月よりグローバルテック・グロース投資ファンド事業を開始

Appendix

1

インテグラルについて

当社パートナー・CFO



山本 礼二郎

代表取締役パートナー / 創業メンバー



佐山 展生

パートナー / 創業メンバー



辺見 芳弘

取締役パートナー / 創業メンバー



水谷 謙作

取締役パートナー / 創業メンバー



早瀬 真紀子

取締役パートナー



二井矢 聡子

パートナー（弁護士）



後藤 英恒

パートナー



山崎 壯

パートナー



西岡 成浩

パートナー



澄川 恭章

CFO&コントローラー（公認会計士）

不動産投資ファンドのパートナー



江村 峻徳

インテグラル・リアルエステート株式会社
代表取締役パートナー / 創業メンバー

- ミリア・レジデンシャル
- イデラキャピタルマネジメント
- アーバン・アセットマネジメント



中井 宏典

インテグラル・リアルエステート株式会社
代表取締役パートナー / 創業メンバー

- CBREインベストメントマネジメント
- 東京海上アセットマネジメント
- ヒューリック
- K J R マネジメント
- 東急



中原 健佑

インテグラル・リアルエステート株式会社
代表取締役パートナー / 創業メンバー

- オリックス
- キャピタランド・ジャパン
- M&G Real Estate Japan
- Phoenix Property Investors Japan



住谷 智宏

インテグラル・リアルエステート株式会社
代表取締役パートナー / 創業メンバー

- ブラックストーン・グループ
- 大和証券SMBC

投資・Exit実績

1号投資 実行	B/P/S Yohji Yamamoto TYO SHICATA CO. F-Best アバマンショップ																
2号投資 実行	SHINWA CO., LTD. Tbi GROUP Convano QB HOUSE SKY J-Trading ITOKIN Aderans OHIZUMI																
3号投資 実行	DmMiX TOYO JRC 日本工フー株式会社 WAMEZOU K2TOP HOLDINGS PRIMO GHD SANDEN T-Garden DBTC																
4号投資 実行	KITAMURA TOPPAN PHOTOMASK oliver hoken GROUP Daiohs. UPT GELSA TCS HOLDINGS YAMANE																
5号投資 実行	旭化成メタル株式会社																
	2008	2009	2010	2011/ 2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
エグジット	TYO Yohji Yamamoto F-Best B/P/S SHINWA CO., LTD. アバマンショップ SHICATA co. QB HOUSE DmMiX (部分Exit) OHIZUMI SKY (部分Exit) Convano Tbi¹ DBTC (部分Exit) 日本工フー株式会社 JRC ITOKIN WAMEZOU K2TOP HOLDINGS (部分Exit) T-Garden																

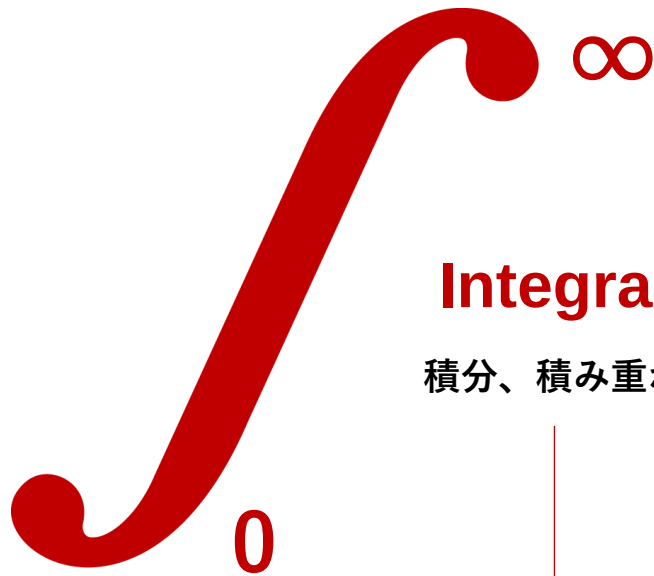


2

インテグラルの特徴

Our Mission

我々のミッション



Integral

積分、積み重ね

ハートのある信頼関係と
最高の英知の積み重ね



Trusted Investor

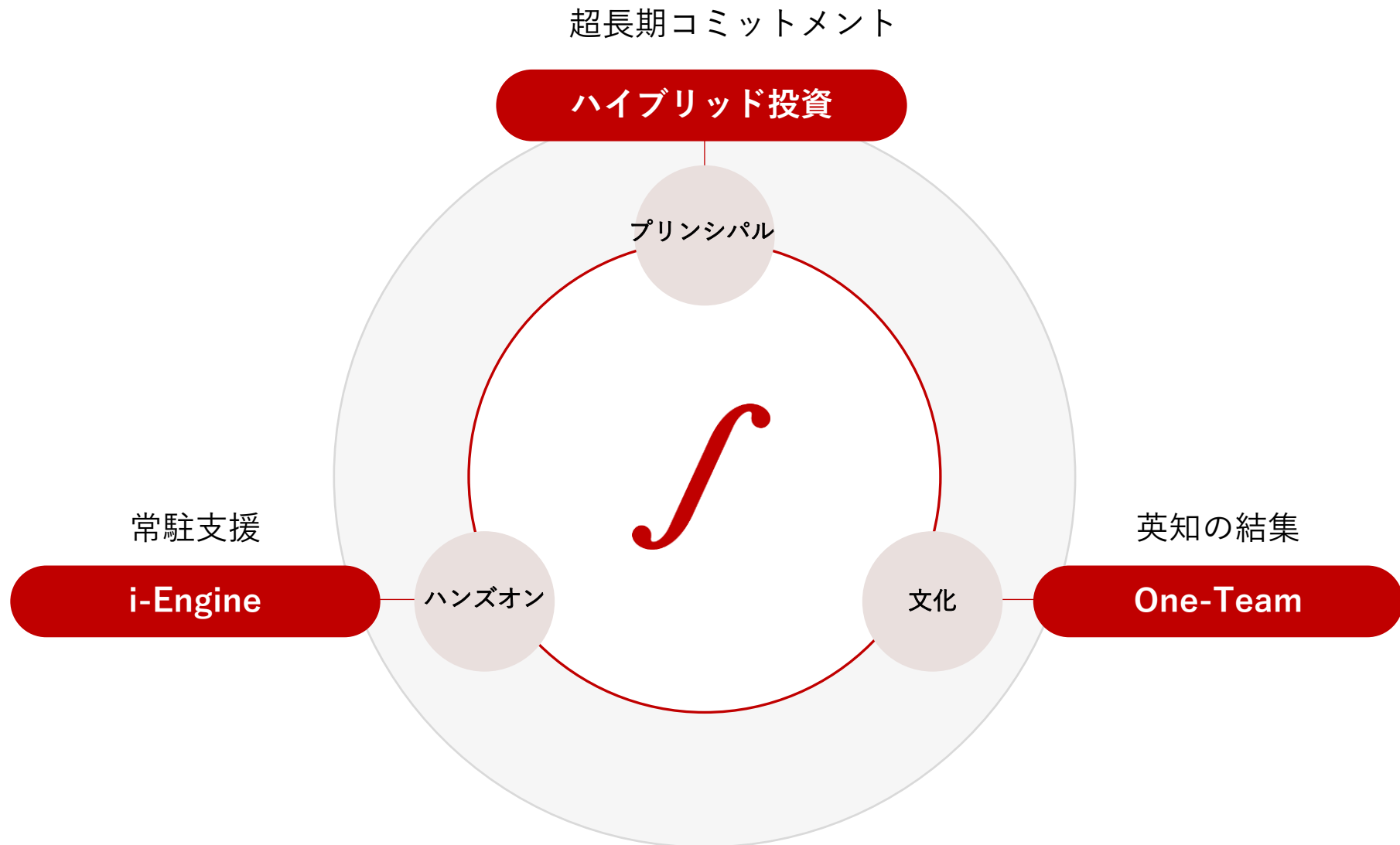
信頼できる資本家

経営と同じ目線・
時間軸



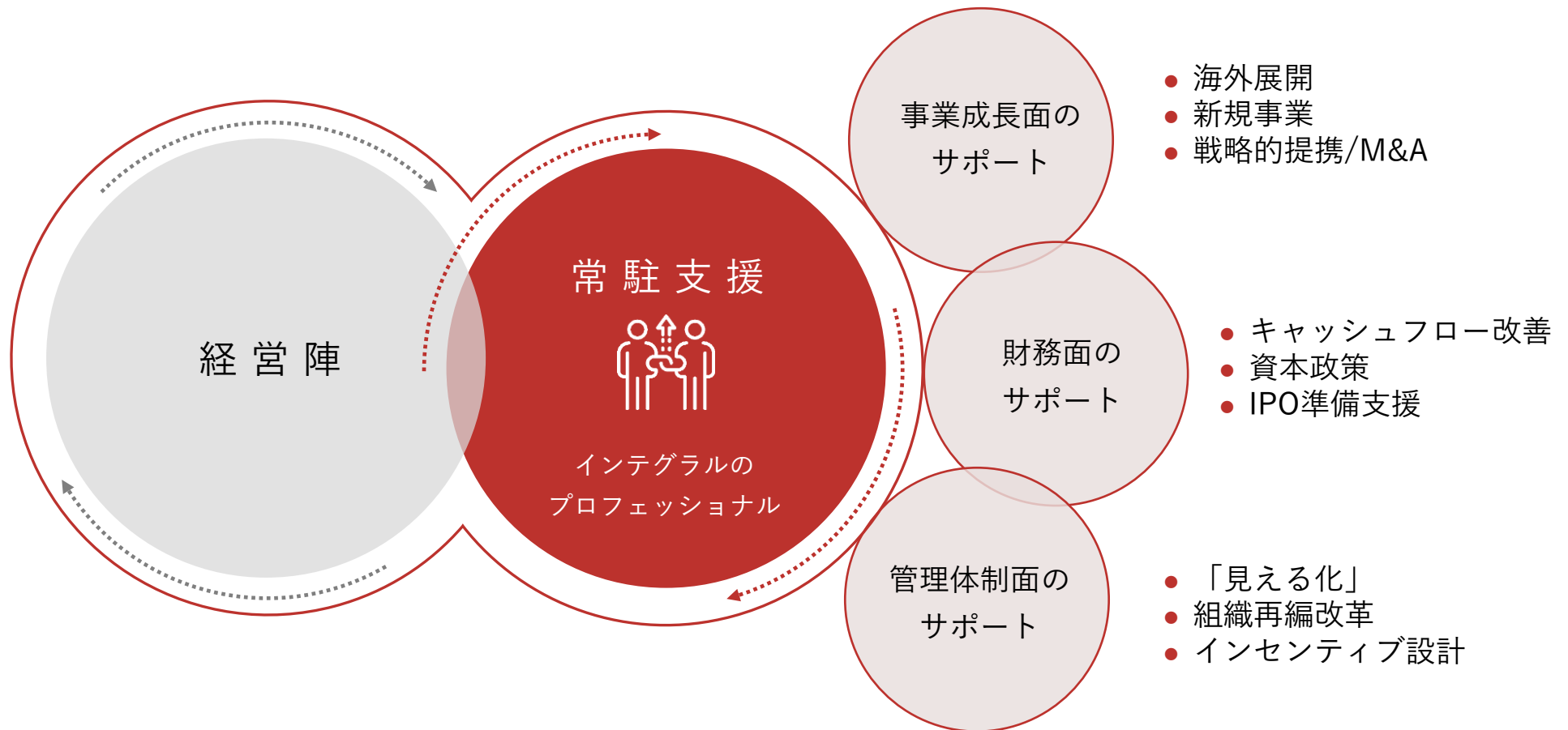
世界に通用する
日本型の企業改革を
実現

なぜインテグラルが差別化されているか



i-Engine とは

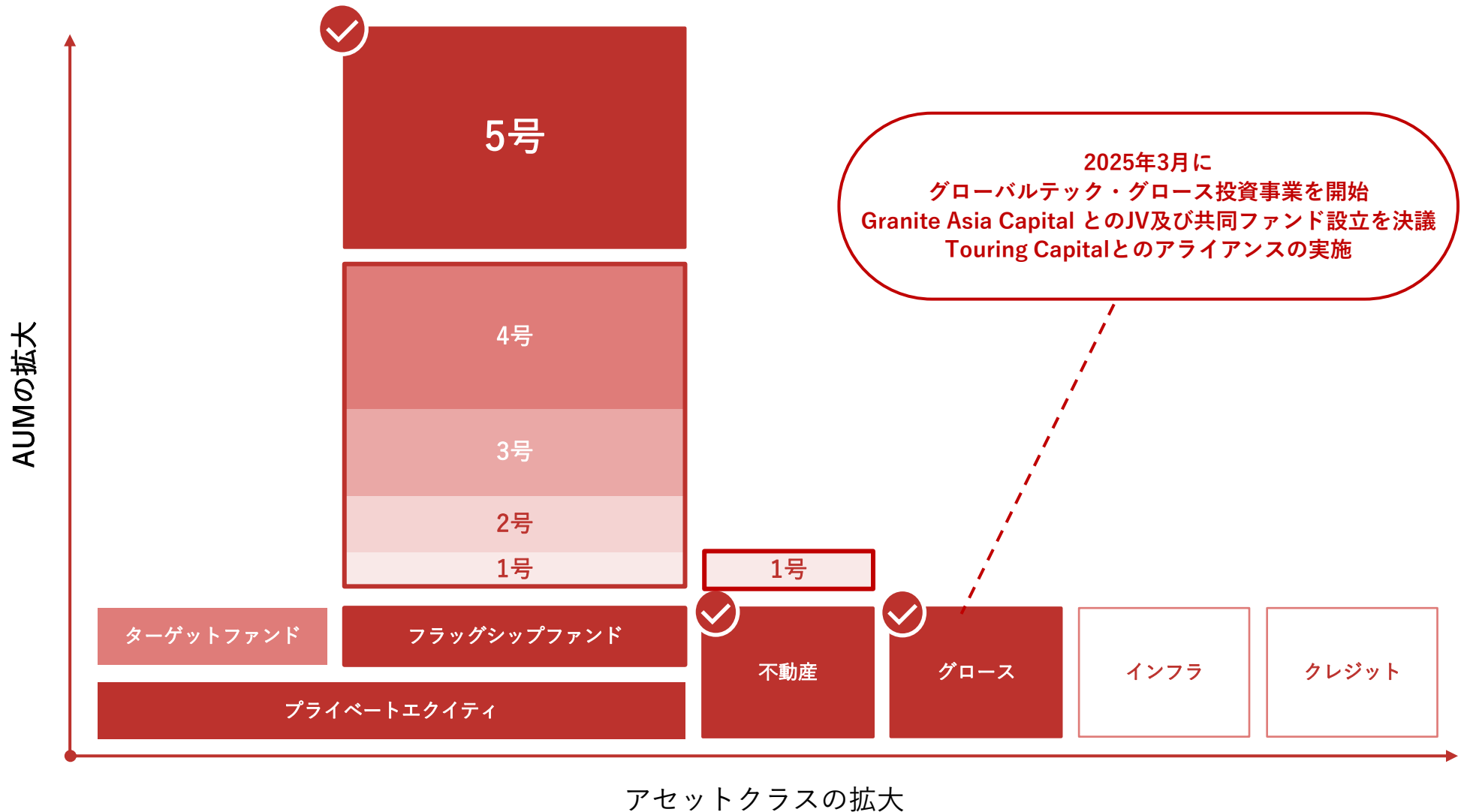
投資プロフェッショナルが常駐でハンズオン支援することで
社内体制強化を迅速かつシームレスに実行



2

成長戦略

マルチアセット化の更なる推進



4

チャンスに満ちたビジネス機会

日本には広大なアップサイドが存在

⇒ ファンドの資金調達サイド

GDP全体に占めるPE関与割合

Japan

0.4%

United States

1.3%

United Kingdom

1.9%

Germany

0.7%

日本はユニークであり
需要と供給の
両方が成長へ

オルタナティブ資産への投資割合

GPIF (Japan)

1.5%

PFA for Local Govt.
(Japan)

1.0%

Federation of
municipalities (Japan)

1.0%

GPF (Norway)

1.8%

NPS (South Korea)

15.8%

CalPERS (US)

27.6%

CPPIB (Canada)

58.0%

NSSF (China)

14.0%

CalSTRS (US)

46.9%

⇒ ファンドの投資サイド

なぜ今が好機なのか？

事業承継

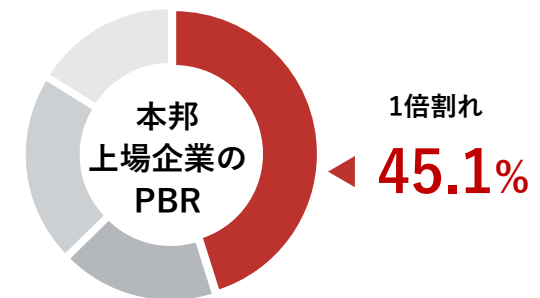
中小企業経営者の
70歳以上比率

25.5%

直近5年間の
事業承継M&Aの
増加率

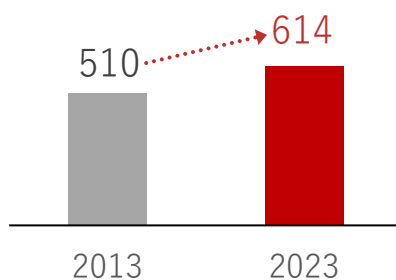
約2.4x

割安な株価評価

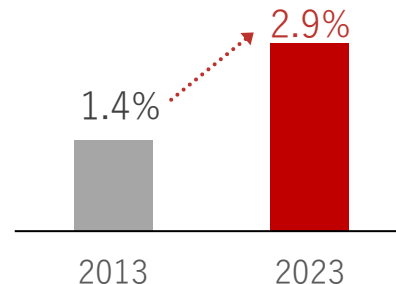


カーブアウト

カーブアウト案件数



うち、
PEファンド関与比率



アクティビズム

アクティビスト・
機関投資家による提案件数



同意なきTOBの件数

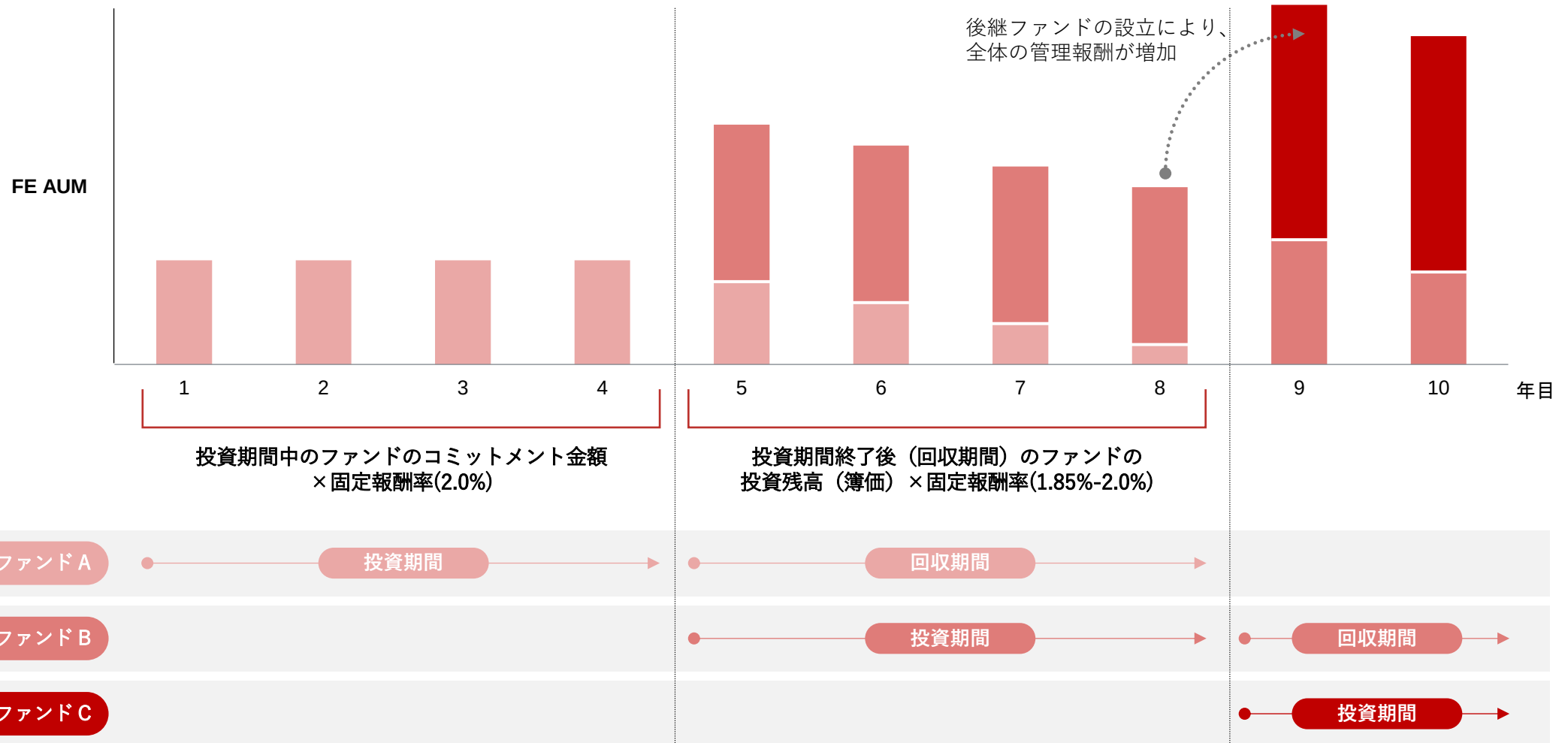


5

インテグラルの事業モデル

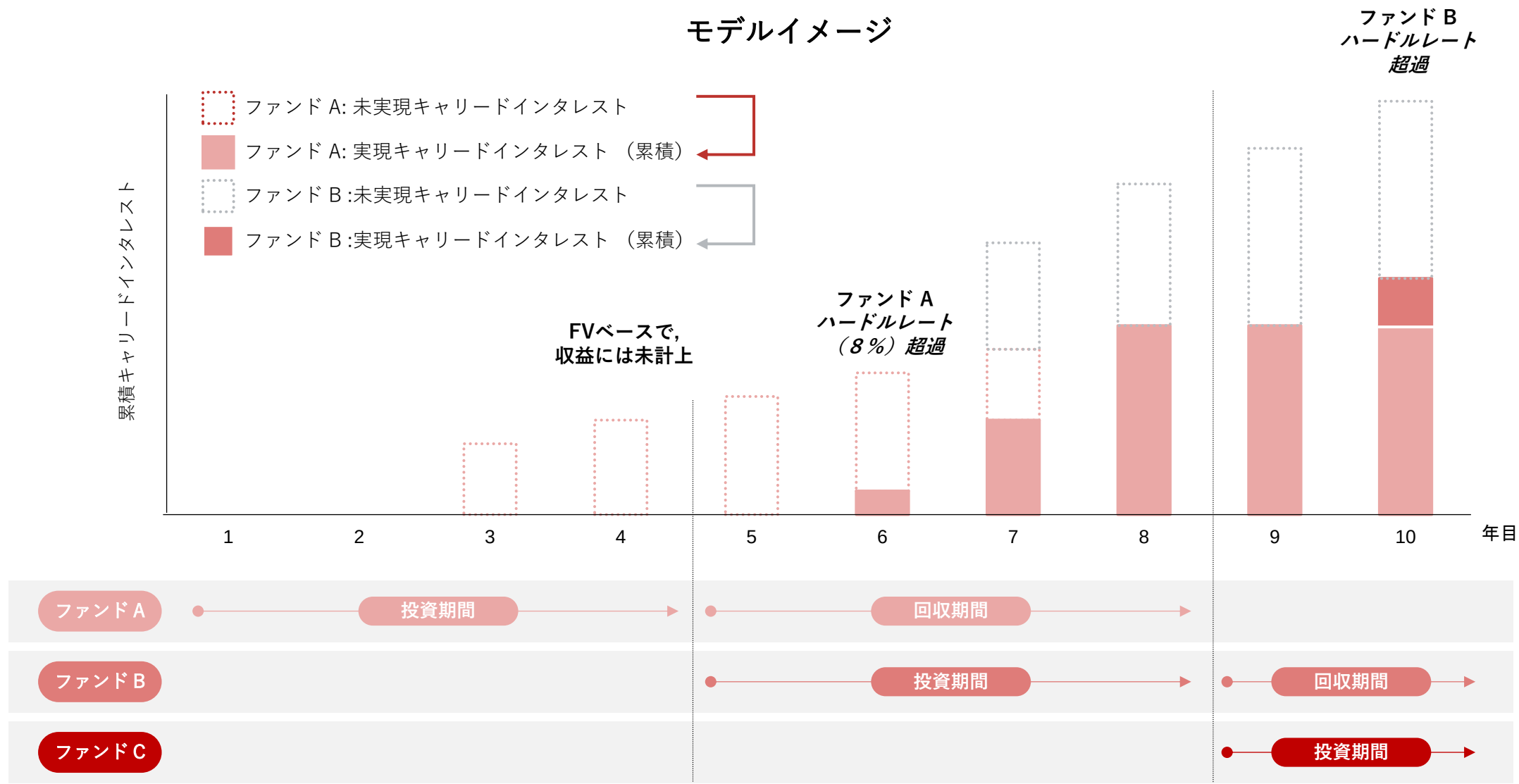
管理報酬が、企業価値向上の礎に

モデルイメージ¹



1. 前提条件：4年ごとに次号Fundを設立し、次号Fund毎にファンドサイズが1.5倍増加した場合の想定

ハードルレートを超えると、キャリドインタレストが実現



キャリードインタレストの高い投資効率

リターンに関するモデルイメージ¹

想定	投資額 (LP+GP)	100億円	GPコミットメント	2%
	投資期間	4年	ハードルレート	8%
	投資回収額	250億円	ハードル投資利益	36億円

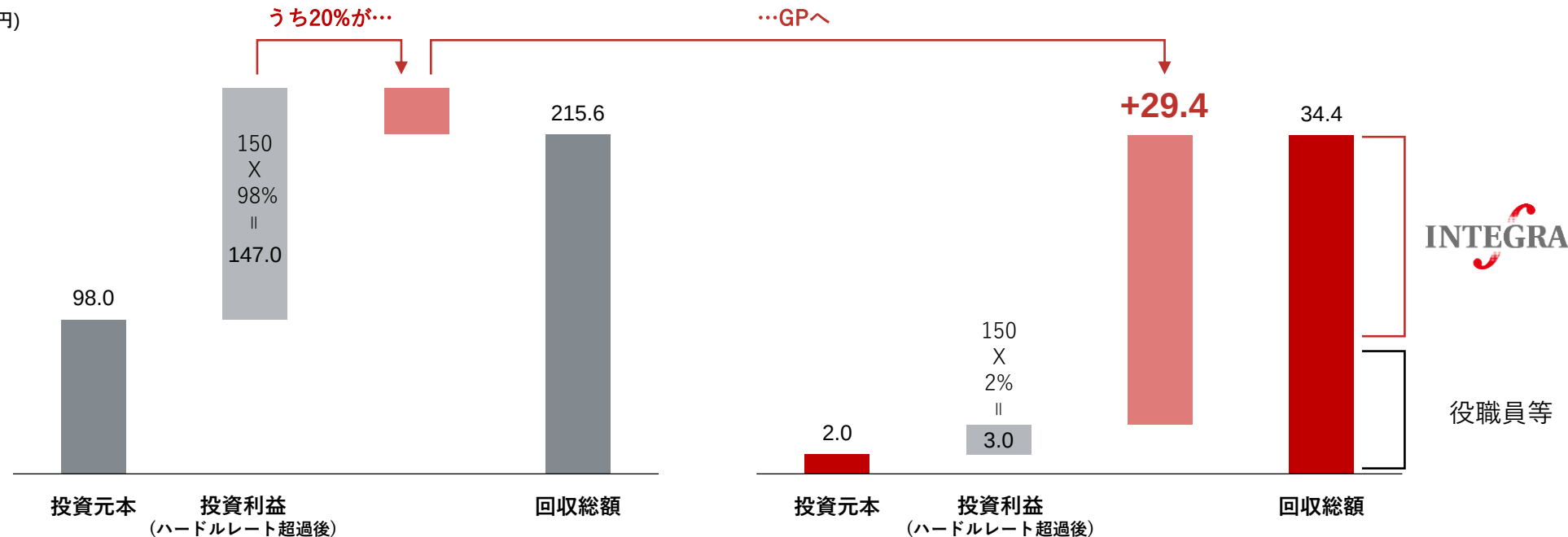
LPのリターン

MOIC¹ 2.2x: IRR¹ 21.8%

GPのリターン

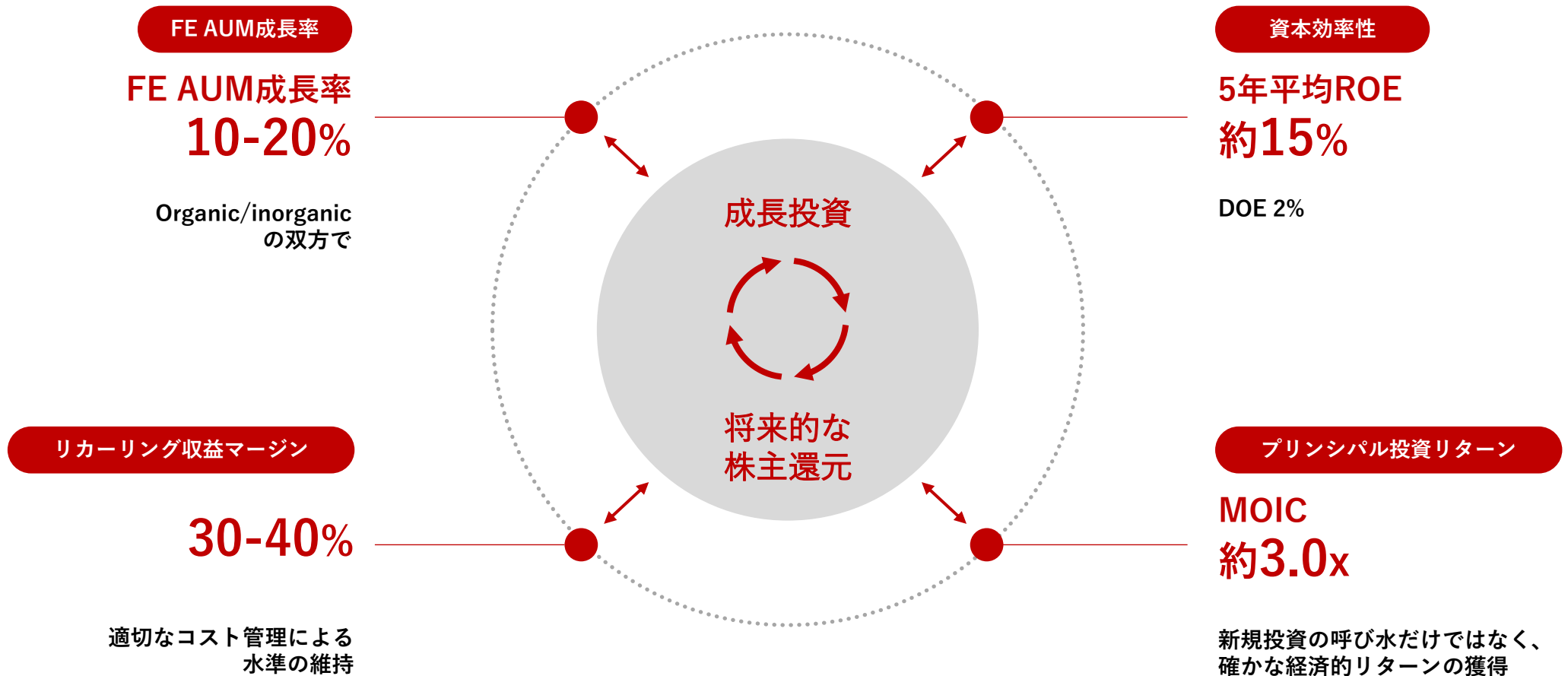
MOIC¹ 17.2x: IRR¹ 103.6%

(億円)



1. 上記の前提に基づき算出されたNet MOIC / IRRを指す。Net MOIC / IRRとはそれぞれ、案件への投資実行額に対する、当該案件の回収額(未実現のキャリードインタレストを含まない。)から諸費用を控除したリターンに基づく割合と内部収益率を指す

ターゲットしていく各KPI

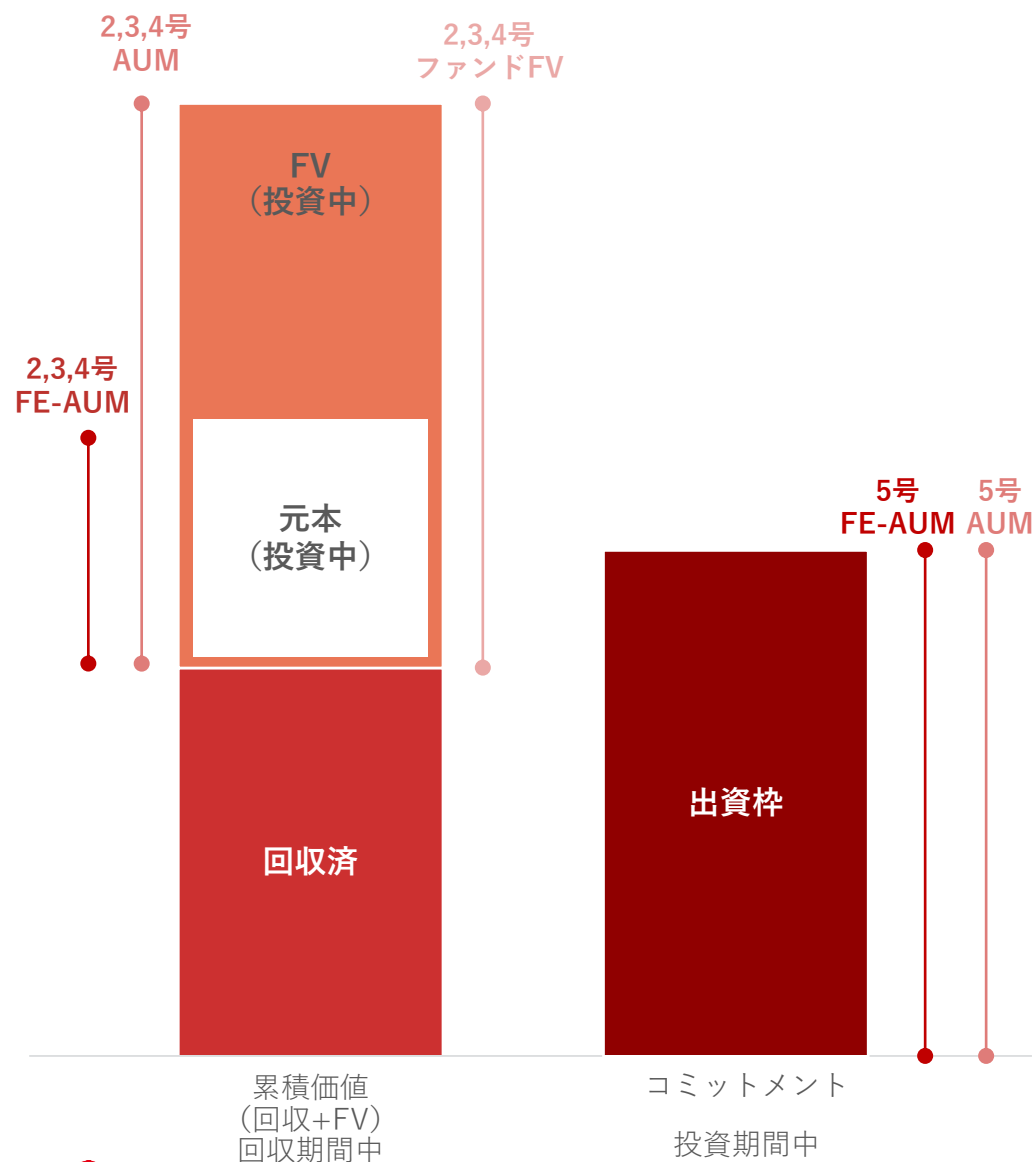


6

財務数値

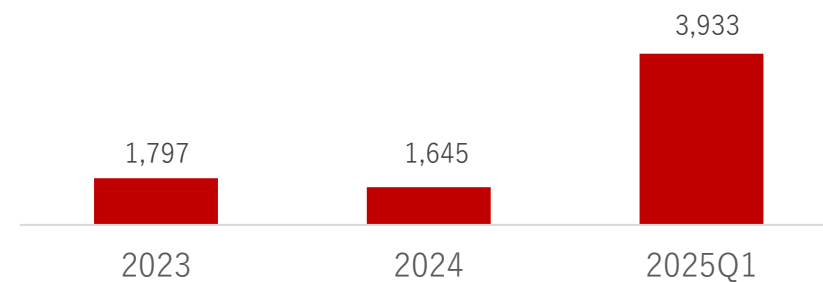
FE-AUM、AUM、ファンドFV

フレームワーク

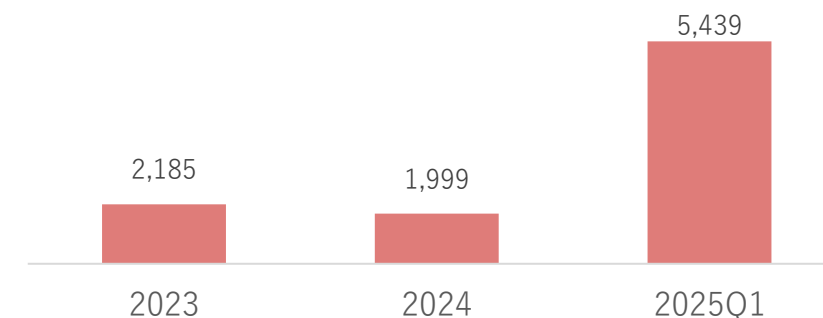


FE-AUM⁽¹⁾

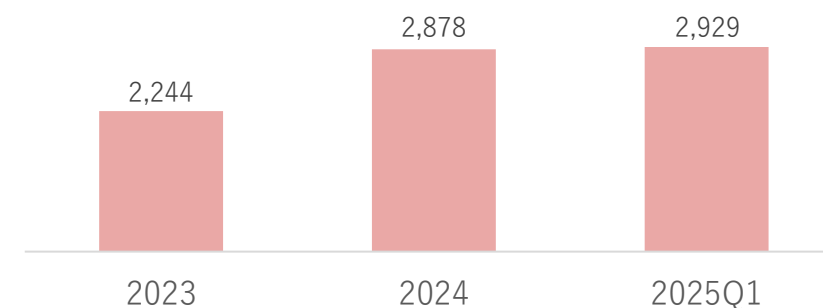
(億円)



AUM



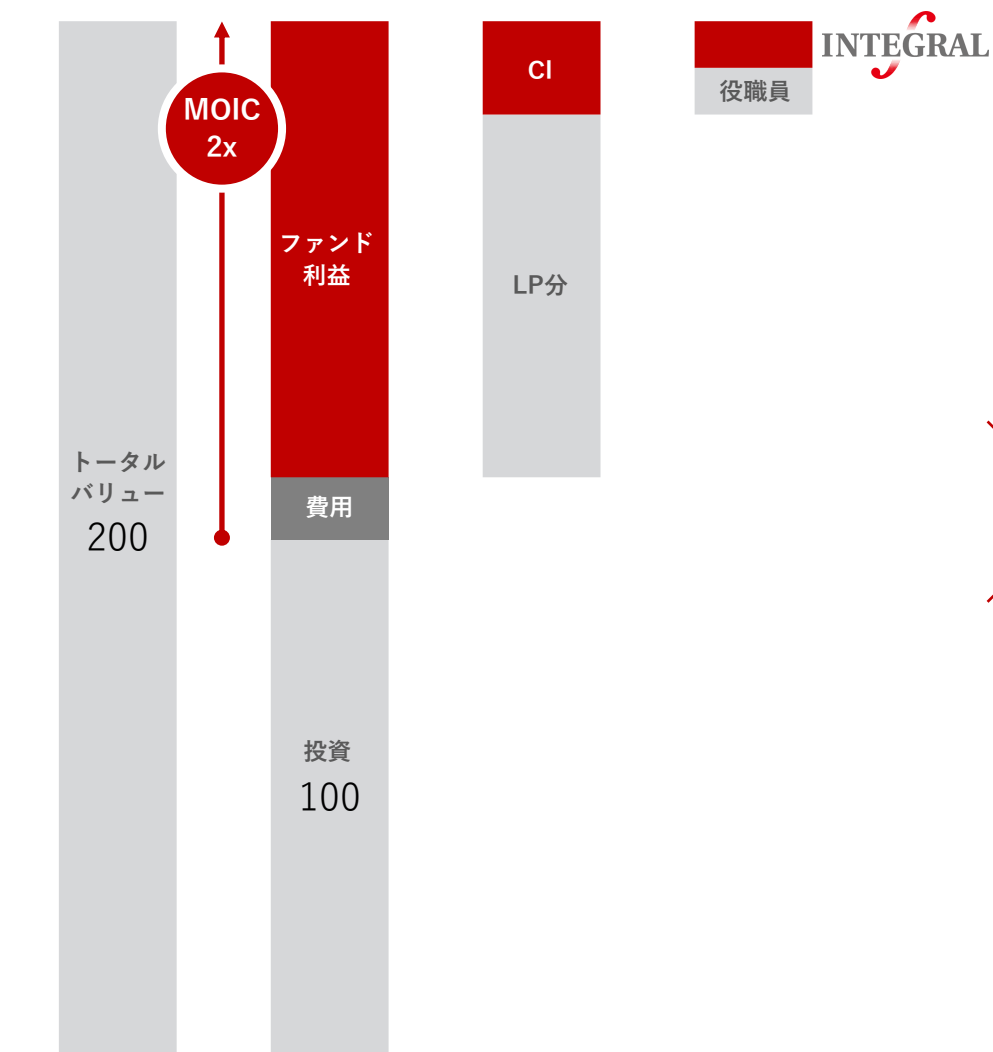
ファンドFV⁽²⁾



ファンド毎の未実現CI

億円

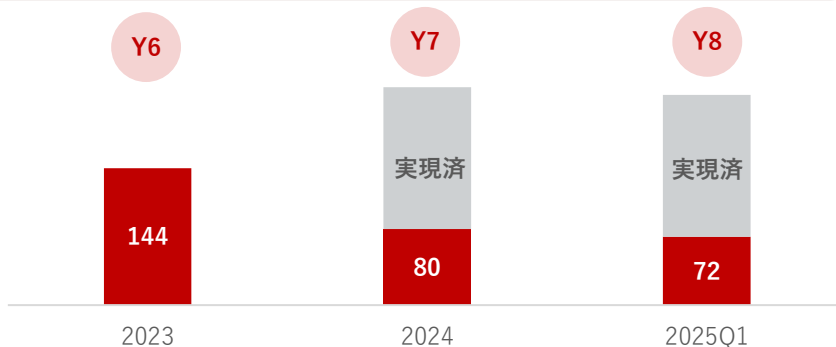
フレームワーク: MOICがCIの大きさに直結



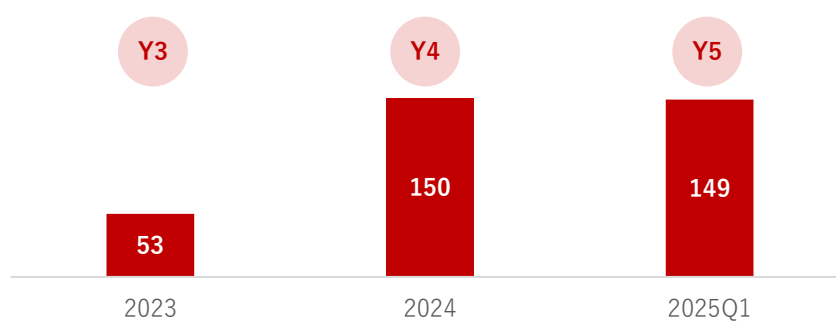
2号シリーズ



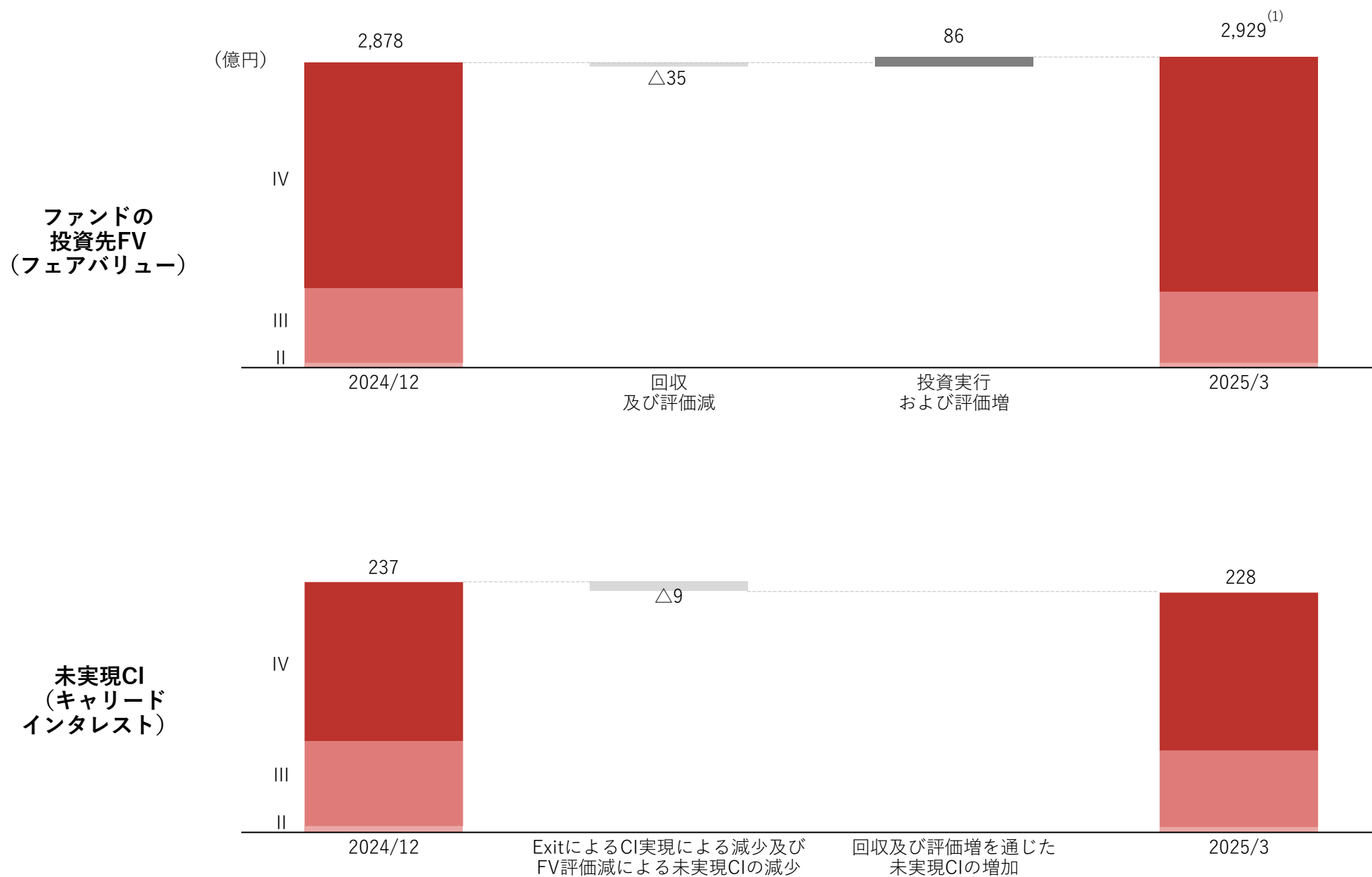
3号シリーズ



4号シリーズ



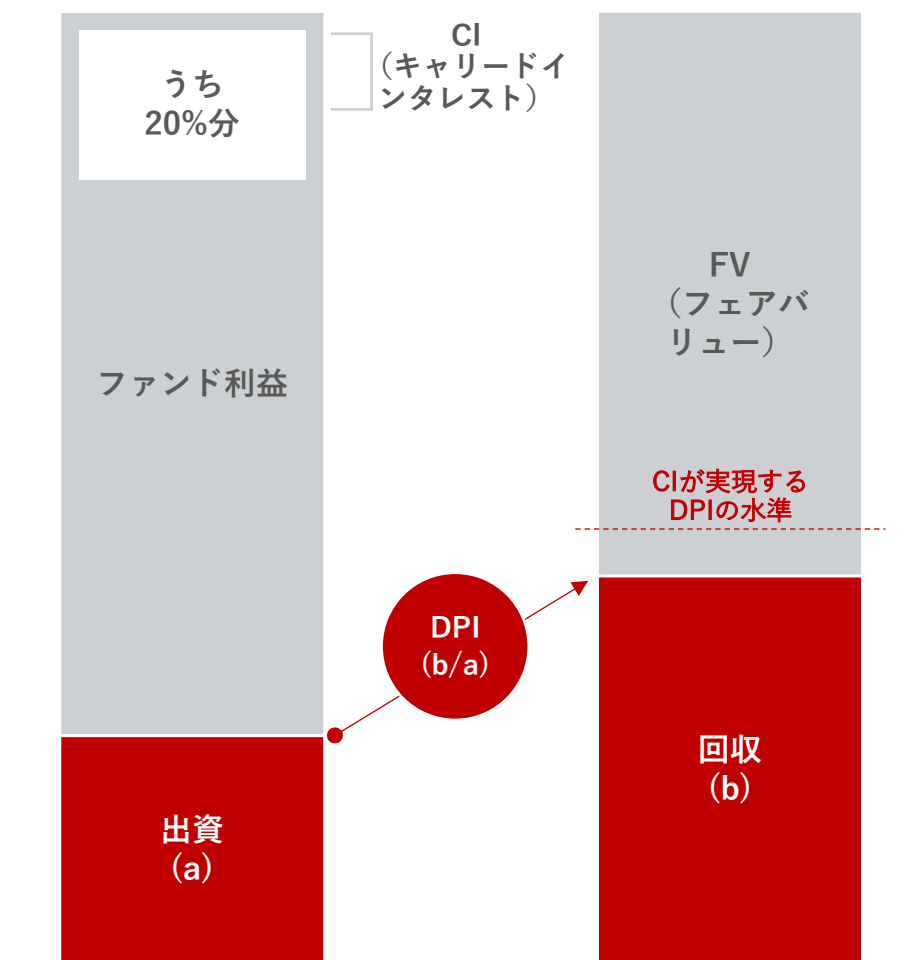
FVおよび未実現CI



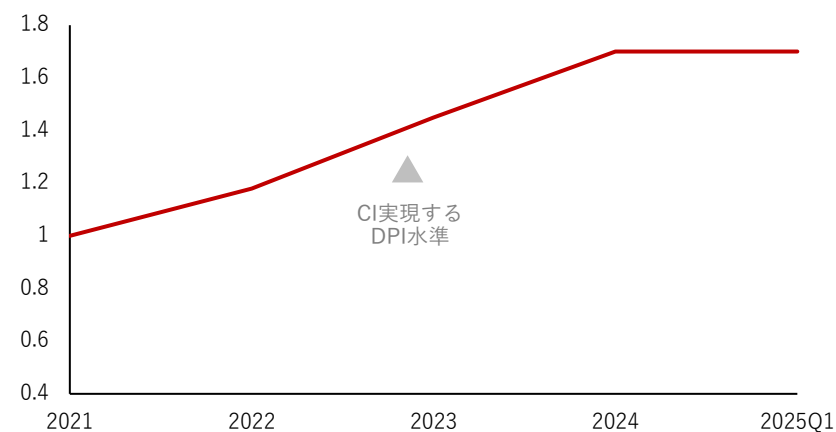
1. 2025年3月末時点で、4号ファンドシリーズではブリッジファイナンスによる投資が存在するものの、将来返還される予定の一時的な投資のため、上記からは除外

キャリードインタレストの先行指標（DPI）

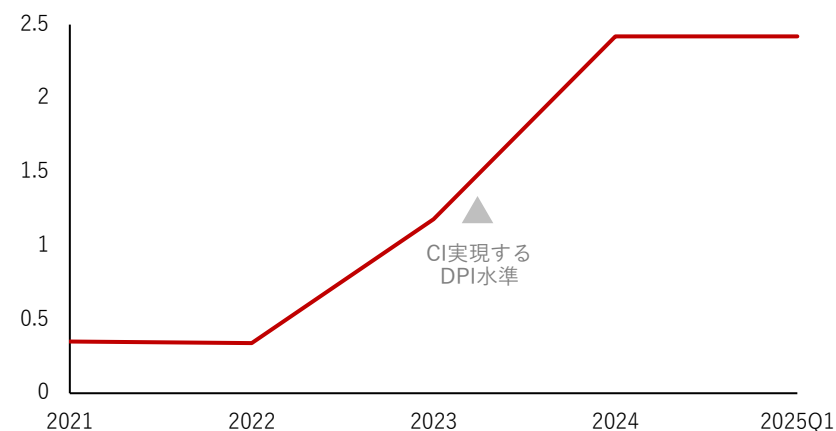
DPI (Distribution to Paid-In Capital)が先行指標に



2号シリーズ¹



3号シリーズ¹



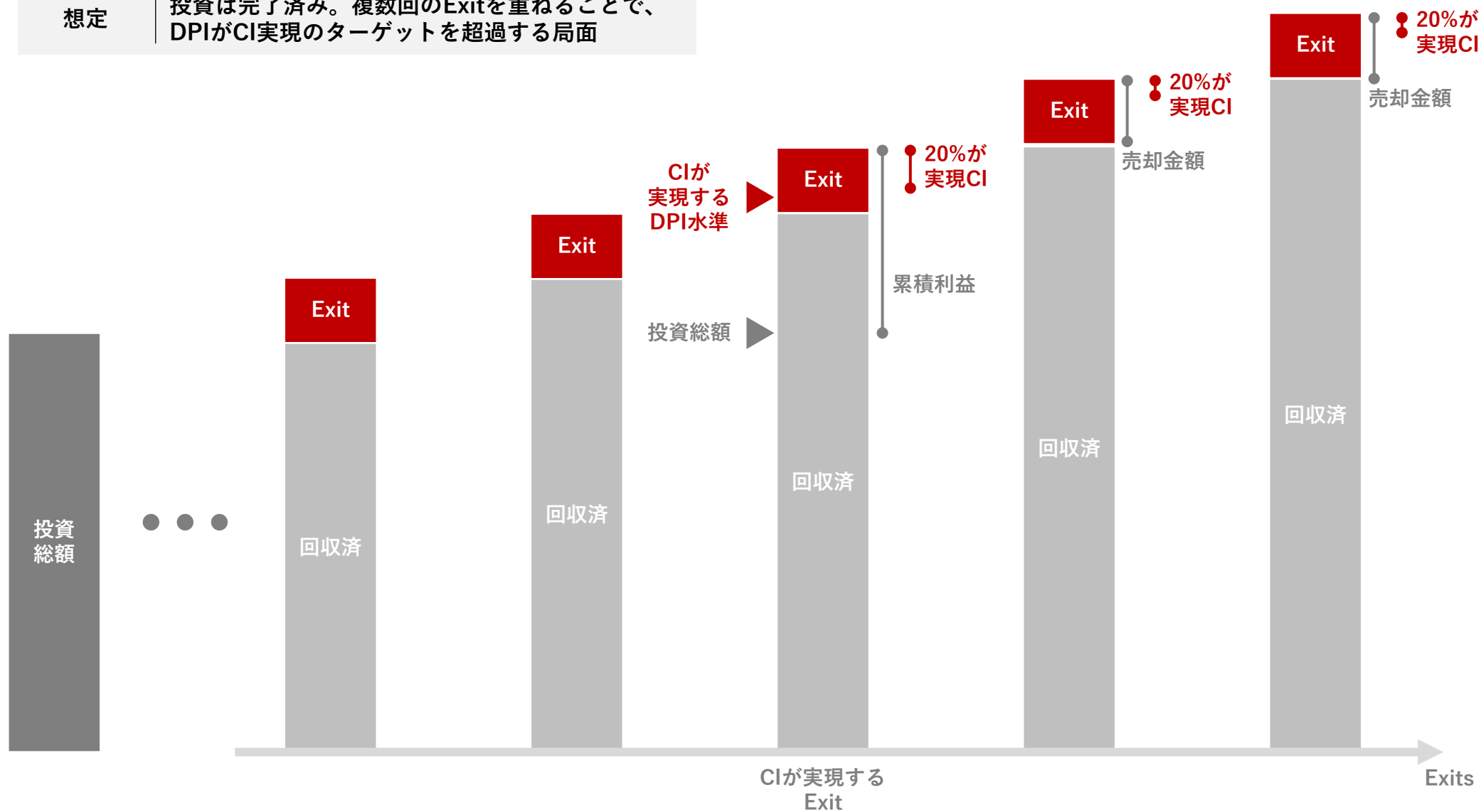
1. 支払済のCI（キャリードインタレスト）を考慮する前のDPI数値

DPIとCI実現

1ファンドにおけるモデルイメージ

想定

投資は完了済み。複数回のExitを重ねることで、DPIがCI実現のターゲットを超過する局面



主要財務数値

連結損益計算書

	(百万円)		
	2024年12月期 1Q	2025年12月期 1Q	2024年12月期 通期
投資売却による実現利益（損失）	-	-	1,200
ポートフォリオへの投資の公正価値変動	524	△119	2,219
公正価値で評価している子会社の公正価値変動	3,034	△685	7,187
その他の投資収益	3	50	26
投資収益総額	3,562	△755	10,633
受取管理報酬	886	1,659	3,494
キャリードインタレスト	501	24	16,849
経営支援料	59	74	250
その他の営業収益	0	0	2
収益	5,008	1,003	31,230
人件費	540	635	2,731
その他販管費	809	342	2,480
営業費用	1,349	978	5,212
営業利益（損失）	3,659	25	26,017
金融収益	17	96	225
金融費用	33	92	257
税引前利益（損失）	3,643	30	25,985
税金費用	1,121	303	7,879
当期（四半期）利益（損失）	2,521	△273	18,105

主要財務数値

連結財政状態計算書

	前連結会計期間 (2024年12月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2025年3月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	22,137	16,910
営業債権及びその他の債権	10,779	2,520
未収法人所得税	1	6
その他の短期金融資産	1	1
その他の流動資産	149	153
流動資産合計	33,070	19,592
非流動資産		
投資	42,730	50,926
ポートフォリオへの投資	7,534	13,636
公正価値で評価している 子会社への投資	35,196	37,289
有形固定資産	178	230
使用権資産	420	355
無形資産	1	1
貸付金	2,387	1,987
公正価値で評価している子会社への貸付	-	160
その他の長期金融資産	260	261
非流動資産合計	45,979	53,922
資産合計	79,050	73,515

(百万円)

	前当連結会計期間 (2024年12月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2025年3月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	897	320
未払法人所得税	4,612	2
未払消費税	29	95
前受金	1,406	2,662
借入金	759	369
リース負債	111	84
賞与引当金	258	105
その他の流動負債	119	130
流動負債合計	8,195	3,770
非流動負債		
借入金	2,389	1,987
リース負債	153	133
資産除去債務	212	212
繰延税金負債	10,465	10,766
非流動負債合計	13,220	13,098
負債合計	21,415	16,869
資本		
資本金	7,634	7,634
資本剰余金	6,421	6,448
利益剰余金	43,574	42,559
新株予約権	0	0
自己株式	△6	△5
親会社の所有者に帰属 する持分合計	57,624	56,636
被支配持分	9	9
資本合計	57,634	56,645
負債及び資本合計	79,050	73,515

主要財務数値

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	前第1四半期 連結会計期間 (2024年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2025年3月31日)	前連結会計期間 (2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前利益(△は損失)	3,643	30	25,985
減価償却費及び償却費	46	86	205
受取利息及び受取配当金	△20	△146	△251
支払利息	33	92	255
引当金の増減額 (△は減少)	27	△152	191
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△1,784	8,258	△10,573
ポートフォリオへの投資の増減額 (△ は増加)	△423	△6,101	933
公正価値で評価する子会社への投資の 増減額 (△は増加)	△1,720	△2,093	△7,259
貸付金の増減額 (△は増加)	△2,256	440	△2,220
公正価値で評価する子会社への貸付金 の増減額 (△は増加) その他の資産の 増減額 (△は増加)	-	△160	-
その他の金融資産の増減額 (△は増 加)	17	△0	37
その他の資産の増減額 (△は増加)	△30	△46	△6
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	30	△532	56
未払消費税等の増減額 (△は減少)	23	65	△7
前受金の増減額 (△は減少)	324	1,256	791
その他の負債の増減額 (△は減少)	△19	10	△0
その他	-	△0	△0
小計	△2,108	1,006	8,138
利息及び配当金の受取額	4	149	27
利息の支払額	△49	△128	△63
法人所得税の支払額及び還付額 (△は 支払い)	△1,447	△4,616	△2,284
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,632	△3,589	5,818

(百万円)

	前第1四半期 連結会計期間 (2024年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2025年3月31日)	前連結会計期間 (2024年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得によ る支出	-	△49	△11
投資活動による キャッシュ・フロー	-	△49	△102

(百万円)

	前第1四半期 連結会計期間 (2024年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2025年3月31日)	当連結会計期間 (2024年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー			
公正価値で評価している 子会社からの借入れによ る収入	-	1,500	-
公正価値で評価している 子会社からの借入金の返 済による支出	-	△1,500	△3,500
借入れによる収入	2,255	-	2,255
借入金の返済による支出	△390	△831	△780
リース負債の返済による 支出	△35	△49	△141
自己株式の売却による収 入	11	27	52
配当金の支払額	-	△733	-
財務活動による キャッシュ・フロー	1,841	△1,587	△2,501

INTEGRAL

A stylized red integral symbol ($\int$) is positioned behind the word "INTEGRAL". The symbol is rendered in a vibrant red color with a subtle gradient and a slight shadow effect, giving it a three-dimensional appearance. It is centered vertically and horizontally behind the text.